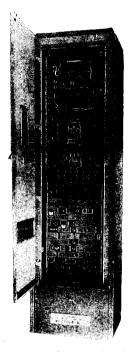
Osaki

大崎電気の電子機器

生産の合理化と生産性の向上に
活躍するエレクトロニクス関係機器

中央指令式受量計算作表装置　　　　送量装置

デジタルテレメータ

電圧，電流，電力，電力量，水位，温度，圧力その他時々刻々に変化するいろいろの量を測り，数百メートルあるいは数キロメートル以上離れた遠隔の位置で自動的にそのデータを整理計算要約し，タイプライターにより直ちに役立つ生産管理用記録表を作成する自動装置であります。なお現在はオールトランジスター式で構成されております。

営業品目

積算電力計，　計器用変成器
電流制限器，　配　電　盤
分電盤，　ニュートラルスイッチ
電圧調整器，　テレメーター

大崎電氣工業株式會社

本　社　　東京都品川区五反田1の263
電　話　(441) 2111 代表

巻頭言

防御こそ最大の攻撃の糸口

日本協会副会長　馬場太郎

1926年、ハンドボールの発祥地ドイツで国際的組織を作ることが認められ、1928年に国際ハンドボール連盟（IAHF）が創立された。1934年8月ストックホルムで開かれたIAHF会議で国際ハンドボール規則が承認されて今日まですでに30年。この間数多くの国際交流、世界選手権大会が開催されてきた。

わが日本も過去三回の欧州遠征によって世界ハンドボール界の国際的客観情勢を知り、一方国内的に目を向けたとき、いままで日本が採用してきた11人制、7人制の両刀使いもまがり角に直面した。欧州における7人制の隆盛と11人制の衰退、この現状を遠く離れたアジアのわが日本がいかに観察し、いかに処理するか。残念ながら後進国の名のもとにいつまでも彼らの後塵を拝するか、一挙に欧州第一線級の国々とくつわを並べるか。一にかかって決断の二字にあった。本年4月1日を期して7人制一本化に踏み切った関係各位の努力に敬意を表したい。とはいえ前途は多難であり、幾多の苦難の道が横たわっていることを覚悟しなければならない。まず少くとも中学時代からの愛好者の増加と、トップレベルにある選手諸君のなお一層の努力を必要とする。そればかりではない。すでに相当の攻撃の技術をもつ日本の選手ではあるが、体力がなく防御に甘さをみせている。これを直すとともに、これからは国際試合、海外遠征の機会もある。そのためにはこの競技が要求する知的、精神的適性。すなわち脚力スピード、持久力、敏捷性の獲得のトレーニングに大いに努力しなければならない。

このさい私が特に強調したいことは「攻撃は最大の防御である」との従来の考え方から脱皮すること。『防御こそ、とくにアグレッシグなデフェンスこそ最大の攻撃の糸口である』と改めなければ、日本のハンドボールの発展は期待できないことを強く提唱したい。日本に最初の大体育館が大阪に建設され、その建設を記念して全日本総合室内ハンドボール選手権大会が開催されてから本年ですでに十年。今日の隆盛と、将来を約束されたハンドボール競技の今後の成長を、全国20万人の同好者とともに見守りたい。

ハンドボール「第14号目次」

巻頭言「防御こそ最大の攻撃の糸口」…………馬場太郎…（1）

◇特集◇～7人制日本縦断～

「世界の王座」を目標に…………（2）

アンケートにみる7人制一本化の新編成

瞬間的なダッシュを……………函館工高
クイックプレーを……………青森商高
足，腰を強く……………古川工高
からだを柔かく……………安積高
サーキットトレーニングを……………墨田川高
走，跳，技の三要素……………神代高
脚力に重点を……………石岡一高
判断力をつける……………関東学院
徒手体操で鍛える……………清水市商
インターバル走法で……………桜台高
ショートパスを重視……………四日市高
耐久力と関節運動……………寝屋川高
短距離を早く走れ……………新宮高
投，捕，走に主力を……………坂出工高
フルに走れる体力……………新居浜工
パス練習に重点……………岡山工高
パスの種類を多く……………徳山高
耐久力より機敏性……………高志高
テンポの早い動き……………博多工高
守れ三原則……………鹿児島工
ピッチ走法で……………東北学院
機敏性を養成……………日体大
オールラウンドプレーヤーに……………中京大
視覚の訓練……………桃山学院
力を出し切る体力……………芝浦工大

サイド攻撃をやれ…………渡辺一己…（8）
欧州の7人制を見て

国内最初の室内国際戦
韓国学生3勝4敗1分け…………（12）
試合記録と戦評―杉山，鴛尾，菅沼―
体力，脚力を生かす…………佐野和夫…（14）
近い将来には好敵手…………中沢重夫…（15）

関東学生・立大5度目の優勝…………（18）
7人制で初優勝して…………勝　敏夫…（19）
関西学生・関大2年ぶり優勝…………（20）
トラブル張本人は関学ベンチ…………（21）
西日本学生・桃山学院が初優勝…………（19）

―技術研究室（6）―松本重雄―
誌上座談会　ゴールキーパー編…………（10）

就任のあいさつ　東京・愛知協会長
まず基礎固めを…………東京・渡辺和美
発展の推進力に…………愛知・小杉仁造…（7）

―体育研究室（5）―山本隆久―
ハンドボール選手のトレーニング…………（22）

楽書帖　冷や飯ばかり食っている…………（16）
時　評　審判不信はもってのほか…………（16）

～連　載～
ハンドボール球史　第5回…………（24）
戦前の中学大会と戦後の各種大会
地方球界の歩み　第1回…………（26）

話題のチーム
「ジューキ・ミシンの巻」…………（30）

協会だより………（5）
海外通信………（20）
地方だより………（30）
投書欄………（31）
質問欄………（31）
後記………（32）

表紙写真――第2回世界女子選手権大会日本対西独戦から

7人制日本縦断

『世界の王座』を目標に

アンケートにみる7人制一本化の新編成

4月1日から7人制が実施された。世界ハンドボール界の動向が7人制に移ったのでやむを得ない。11人制から一気に7人制に切り替わったので、大学、高校、一般男子の各チームはチーム再編成にかなりの努力が払われたと思う。そこで私は全国の各チームに次の要領でアンケート（63通）を出してみた。回答の結果は高校チームが多く、回答は1/3強に終わった。この資料を機関誌「ハンドボール」に掲載して、広くハンドボール愛好者の資料の一部にしました。（共同通信社　鷲尾武治）

アンケート

（1）11人制から7人制に変わったので、からだづくりのトレーニングはどう変えたか。
（2）練習方法はどう変えたか。
（3）いままで11人制の選手のうち、7人制に使えない選手はどうしたか。
（4）7人制競技のために、どういう面に力を注ぐか。
（5）チームを強くするには、どういう面に力を注ぐか。
（6）見ておもしろくするにはどうしたらいいか。

瞬間的なダッシュを

函館工高（北海道）
監督　岡田豊夫

1 11人制当時と変わらない。
2 瞬間的なダッシュ方式が必要となるため、短距離走を主体的にランニングパス。このパスはラグビーからヒントを得た。
3 全員が7人制をできるように指導。フォワード、バックスの区別なく、だれでもできるようにしている。
4 走力をつける。全員がシュートおよび守備ができるようにする。恐怖心を抱かせない。スピードをモットーとする。
5 バスケット的な要素を持っている競技なので、スピードを主体としてダイナミックなゲームにしたい。そのためにはラグビー的な面を取り入れ、全員が全力を出せるよう指導して行く。
6 各チームごとにチームカラーを持たせたい。たとえば速攻形—遅攻形、ロング—ショート（シュート）、フリースローなどの特色を持たせる。むかしラグビーの全盛時代に、慶大形、早大形、立大形があったように。チームごとにそのカラーをつくりあげてほしい。

クイックプレーを

青森商高（青森）
監督　斎藤　浩

1 耐久力、機敏性をつけるトレーニング。
2 すべてのプレーをクイックにすること。かつシャープであることに重点を置く。またすべての選手がオフェンス、デフェンスをマスターできるように指導する。
3 11人制のバックスの者が該当するが、オフェンス、とくにシュート力を身につけるように練習させている。
4 デフェンスのとき、カットした態勢から速攻に移れるようにする。オフェンスからデフェンスに早く帰る。
5 できるだけ長身者の部員を集める。スタミナの養成とハッスルなプレーに重点を置いている。さらに強力な攻撃力を身につける。
6 デフェンスはもちろん重要だが、それ以上に得点力のあるチームをつくること。速攻を身につけること。パスミス、キャッチミスは興味を半減するから、こんなことがないようにする。

足、腰を強く

古川工高（宮城）

1 伝統の足、腰を強くするため、毎週1—2回マラソンを行なう。約4キロを2往復。
2 決定的な線は打ち出していない。
3 11人制のものでも、じゅうぶん使える。
4 メンバー・チェンジの技術を作戦面に取り入れたい。
5 選手の一人一人がルールをよく知ること。
6 スピード、正確、鋭さ、スマート。

からだを柔かく

安積高（福島）
監督　山ノ井昭平

1 からだを柔かくするために、柔軟体操を多く取り入れた。インターバル・ダッシュを多くやり、いつでもダッシュできるようにする。

2 スピードをつけるため、短距離を全力で走る練習を始めた。狭いコートでプレーするため、機敏な動きができるように、またバックもフォワードもシュートできるように練習している。

3 全員が7人制でプレーできるよう指導している。

4 Ⓐコートが狭くなったので機敏な動きをとること。
Ⓑスピードをつけて迫力のあるゲームをすること。
Ⓒだれでもシュートできるようにシュート力をつける。

5 Ⓐチームワークを整える。
Ⓑ得点力をつけるためシュート力をつける。
Ⓒスピードをつける。よく走る。

6 ⒹGKを強くする。
基本となる走ること、投げること、ボールを確実にキャッチすること。プレーにスピードをつけ、ゲームを中断させないこと。

サーキット・トレーニングを

墨田川高(東京)
監督　松本重雄

1 基礎体力の養成では変わっていない。特に瞬発性、巧致性をのぞむ。持久力、柔軟性はもちろんやらねばならない。

2 サーキット的トレーニングがいちばんいい。短かい時間に能率的な方法、能力別に指導する方法も必要。ひとつのものを長くやる必要はない。

3 どの部分が劣っているかを発見し、その部分を補強させるように指導し、自信を持たせる。

4 基礎体力（形態、機能、技能）をいかにしてハンドボール的技能に結びつけるかがすべてである。

5 コンビネーション。カン。基礎体力の自信。興味。

6 走ること（速攻）。セットプレーが組めること。スピードと頭脳的プレーの強引さ。

走、跳、投の三要素

神代高(東京)
監督　佐野和夫

1 走る、ジャンプ、投げる。この三つの要素が11人制よりも必要である。これに加えて機敏性も必要。これらのことを考えて、いままでやってきた練習法をさらに改良、研究している。コートが小さくなったこと、耐久力をつけることをじゅうぶん研究する。

2 パス、キャッチ、シュート、動きなども11人制にくらべ少し変わっている。

3 私のチームは選手数が少ないので、なんらかの形で全員参加させている。やはり教育的な立ち場を考えて、全員に均等な指導が必要。

4 質問の6に関係があると思うが、スピードをつけること。終始早い動きでシュートに結びつけるように心掛ける。技術としては、とくに細かな身のこなしが必要であり、重点的に行なう。

5 Ⓐ体格（からだの大きいもの）、体力にすぐれている者の養成。
Ⓑ機敏性を高める練習。

6 Ⓒ的確な判断力をつける。まずスピードが必要。スピードと同時に強引さがあっていい。少しぐらい荒々しい動き（攻防）が必要。日本人的な考え方として、細かいルールの適用は必要でない。ゲーム前に申し合わせをしたらいい。せっかくスピードが出たゲームを、ちょっとした反則で中断するのは興味を失う。

脚力に重点を

石岡一高(茨城)
監督　山内孝雄

1 脚力（走法）に重点をおき、腕力（シュート）をつけるように指導する。

2 11人制と大きく変わることはないと思うが、GKの守備位置、パスの種類（たとえばチェストパス、バウンドパス）、シュートの方法を変えた。

3 11人制当時、足のおそい選手はFBに使っていたが、7人制になってからは使っていない。

4 GKの重要性、シュートの方法（モーションを早くし、変形的なシュート）、小さいパス、特にチェストパスを多く使う。

5 ある程度の失点は覚悟し、それ以上の得点をあげる。11人制の場合は15点前後が勝敗の分岐点となったが、7人制では20点が勝敗を決する。方法としては速攻あるのみ。GKのボールの出し方によって、得点に大きく結びつく。

判断力をつける

関東学院高(神奈川)
監督　若崎重富

1 根本的には変えていない。柔軟性、機敏性、持久性、判断力を増強するためのトレーニングを行なっている。

2 (個人技能)
Ⓐ走…長短距離はいままでの練習より強くなった。
Ⓑパス、キャッチは正確さを要求する。
Ⓒ細かいフットワークを習得する。
(集団技能)
Ⓐ2人対2人の攻撃、防御に重点を置く。
Ⓑコンビネーションに重点を置く。

3 使えない選手はいない。

4 マラソン競技と同じように、相手を振り切るか、相手に振り切られるかは精神的な面の影響が大きい。この点に力を注ぐ。

5 Ⓐからだの増強。
Ⓑ11人全部が同等の技術、体力を持つようにする。

6 Ⓒ防御力を増強する。スピーデーなゲームにすること。個人技の向上。

徒手体操で鍛える

清水市立商高(静岡)

1 徒手体操をいままでよりも数倍多くやり、マットを使用して体力をつける。

2 スタートダッシュを多くした。GKの練習が全く変わった。

3 全員そのまま7人制をやる。

4 現在のところわかりません。

5 特になし。

6 スピードをつけ、ダイナミックなプレーをすること。ドリブルをしないこと。

インターバル走法で

桜台高(愛知)
監督　稲石三二

1　持久力をつけるためにやっていた長距離競走を、インターバル走法に変えた。

2　早くて小さい動きを主眼にしている。研究する点が多い。たとえばデフェンスひとつみても、11人制ははっきりしているが7人制でははっきりしない。

3　三人のうち一人は陸上競技に転向。他の二人は準レギュラー要員。

4　体格、体力があることが理想。大小を取りまぜて行くのが現段階としてはいいのではないか。そしてスピードをつけること。

5　4と同じことになるのではないか。デフェンスを強くすることが急務。これを早くマスターしたチームが勝つ。これが11人制と異なり、むずかしいことである。

6　スピード、スリリングが必要。バスケットボールのようなスピードのないセット・オフェンスではおもしろくない。(注=問題はゴール前の身体的反則については細心の注意が必要。名古屋のゲームでジャンプして頭から落ち、前額部を強打して入院した選手があった。エリア付近のプレーはじゅうぶん注意すべきである。飛び込んで行くようなプレーもある程度しかたがないが、危険なことである)

ショートパスを重視

四日市商高(三重)
監督　前田保次郎

1　11人制とあまり変わらないが、柔軟体操に重点を置いた。

2　ロングパスをやめて、ショートパス(パウンドパス、アンダーパス)を重視している。短距離走を多くし、ダッシュ力をつける練習をする。

3　特になし。

4　スピード、耐久力をつける。

5　体力、耐久力をつけ、サイドシュートの練習を重要視している。むだなシュートをなくし、パスワークにスピードをつける。GKのミスをなくす。

6　プレーの進行をスピーカーで説明する。技術の説明も必要。

耐久力と関節運動

寝屋川高(大阪)
監督　望月伸三郎

1　11人制は耐久力、ボールキャッチ、サーキットトレーニング。7人制はサーキットトレーニング、マットの転回運動を多くし、耐久力と関節運動に留意している。

2　瞬間的動きを重視している。また対人距離と効果的動作。

3　11人制の選手をそのまま使う以外に道はない。

4　競技人口の普及。施設の充実。

5　ひとつの動作に対する瞬間的反射的な動作。チームワークとタイミングの把握。

6　選手の動き、ボールさばき、スピード以外になし。

短距離を早く走れ

新宮高(和歌山)
ハンドボール部長　田村託三

1　11人制当時は500メートルを軽く走っていたが、こんどは短距離を速く走る。走る距離は50メートルを10往復。

2　第一にはスピードをつける。2〜3人のコンビで練習。

3　バックの練習をさせている。

4　スピードをつける。正確なパス。ねばり強さを鍛える。だれとでもコンビがとれる。ボールを早く回す。確実なキャッチング。

5　がっちりしたチームワーク。練習中は熱心にやる。

6　エリアの中には5人しかはいれないように。また5秒以上はいらないようにしたらどうだろうか。

投、捕、走に主力を

坂出工高(香川)
監督　山地利雄

1　7人制はスピードがなければならない。試合時間の25分間を走り回れるだけの体力が絶対必要である。11人制はグラウンドが広いので、一、二の穴があってもごまかせた。しかし7人制ではごまかしがきかない。走、投、捕の三点に主力を注いでいる。

2　脚力の強さ、機敏性を主眼にしている。レギュラー・メンバーは試合時間の60パーセントをやらせる。

3　部員不足で困っていたが、7人制になってホッとした。全国大会の予選以外は2チーム出場させている。

4　フォワード、バックの差がないので、全員が攻撃、防御しなければならない。したがってチームワークが大事。それにスピードのある動き。

5　強いチームとの練習試合をやること。ライバルの新居浜工高はなぜ強いか。それは実業団の住友化学菊本と練習をやっているからです。要は試合回数を多くすること。

6　スピードがあり、だれでも簡単にできるスポーツ。これがなぜ普及しないのだろうか。協会の歴史が浅く、しかも文部省の指導要項から除外されたのが大きな原因だろう。みんなに親しまれるように大いにPRしてほしい。

フルに走れる体力

新居浜工高(愛媛)
監督　高橋満年

1　コート全体を往復できる体力をつくる。

2　7人制のコートを25分間フルに走れるように鍛える。

3　いままでと変わりなし。

4　攻撃をしているときにも、防御を忘れないようにする。とくに速攻のときには大事。

5　ボールの扱いをいままでよりもじゅうぶん練習する。バスケット的なものを取り入れる。走ることに全力をつくす。

6　速攻でなければおもしろくない。

パス練習に重点

岡山工高(岡山)
監督　永井正

1　まだよくわからない。

2　パスの練習に重点をおく。ボールさばきの受け方のタイミングを研究している。

3　全員を生かして使う。

4　この機会に中学校に進出、この面で大いに努力したい。

5　基本を重点においている。

6 特にない。

パスの種類を多く

徳山高(山口)
監督　星井　直

1 からだの柔軟性を増すトレーニングを行なう。また持久力をつけるトレーニング。

2 パスの種類を多くした。近距離パス、モーションの早いパス、プロンジョン・シュートを中心としたシュート。コート全面使用の攻防戦、ワンドリブルを入れて6歩の歩数を最大、しかも有効に用いる。

3 練習に練習を重ね、パスゲームを行なうことによって少しでも早くレギュラーに近ずかせる。

4 鋭い切り込み、瞬間のダッシュ。プロンジョン・シュートの練習に力を注ぐ。GKのボール出しがひとつの攻撃となるような練習。

5 特になし。

6 バスケットボールのようにボールキープ時間を制限すること。

耐久力より機敏性

高志高(福井)
監督　西島喜代治

1 耐久力よりも機敏性。

2 1に同じ。特にパスワーク、シュートに重点をおく。

3 全部使える。

4 細かいプレー。シュート。

5 強力なチームワーク。

6 反則の取り扱い方を統一してもらいたい。反則数に制限をつけるのもひとつの方法。

テンポの早い動き

博多工高(福岡)
ハンドボール部長　今村孝一

1 11人制当時にくらべ、より柔軟なからだとテンポの早い動きについていけるような機敏性の養成に重点をおいた。

2 Ⓐ柔軟性を養成するために、マット運動を中心に技術面を11人制の2倍以上やっている。

Ⓑ機敏性の養成のために長い距離を走らず、10メートル15メートルのダッシュ。特にスタートに重点をおいた。

Ⓒ左右いずれでもパス、シュート、ドリブルが早く正確にできるように練習している。

Ⓓ攻防戦は速攻に重点をおきパスワークによる5・6、6・6、4・5などの練習。

3 いままでの選手が7人制に転向できないことはあり得ない

4 まずハンドボールは11人制ではなく、7人制である。このため11人制の観念を忘れさせること。それにスピードと力の養成。

5 7人制を完全にマスターするためには、いままでのような長距離を走らせて耐久力を養うよりも、短かい距離でスピードの養成と力ある柔軟なからだをつくること。10—15人が同じ力になるようにレベルをそろえることが第一である。だれとコンビネーションを組んでもチーム力が低下しないようにする。

6 スピード以外にない。

守れ三原則

鹿児島工高(鹿児島)
監督　古市寿夫

1 7人制に変わってもからだづくりには変化はないと思う。投げる、とぶ、走るの三原則を守ったトレーニングをやる。

2 細かいプレーを研究する。

3 学校の方針として、体力向上のため多くの人が入部している。みんなよろこんで練習している。

4 五月に熊本市立高の北川浩氏に来ていただき、審判の講習、世界選手権の16ミリを映写してもらいながら研究した。

5 基礎体力の充実をはかる。速

協会だより

▽第15回全日本総合選手権大会実施要項

(1) 期日　昭和38年8月21日〜25日
(2) 場所　柏崎市営陸上競技場，海岸広場コート
(3) 参加チーム

A 地域予選

① 女子の参加はフリーとする。
② 男子の参加は，次の項目中にいずれかに割り当て選抜されたチームであること。
　イ 地域予選を通過した地区代表チーム
　ロ 学生代表チーム
　ハ 地元代表チーム
　ニ 日本ハンドボール協会から推薦されたチーム
③ 地域区分および選出チーム数はそれぞれ次表のとおりとする。

地域区分と選出チーム数

区分	都道府県別	選出チーム数
北海道	北海道	1
東北	青森 岩手 宮城 山形 福島 秋田	1
関東	群馬 栃木 茨城 埼玉 千葉 東京 山梨 神奈川	2
東海	愛知 岐阜 三重 静岡	2
北陸	新潟 長野 石川 福井 富山	1
近畿	滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山 兵庫	2
中国	岡山 広島 鳥取 島根 山口	1
四国	香川 徳島 高知 愛媛	1
九州	大分 宮崎 鹿児島 佐賀 長崎 福岡 熊本	1

B 各種別の出場チーム数

種別	出場チーム数	備考
前年度優秀チーム	4	日本ハンドボール協会推薦
地域代表	12	ブロック協会代表（7月15日までに協会に推薦する）
学生代表	12	全日本学連代表（6月20日までに協会に推薦する）
開催府県代表	3	地元代表（7月15日までに協会に推薦する）
その他優秀チーム	1	日本ハンドボール協会推薦
計	32	

(4) 参加人員

A 男子種目　1チーム監督1名　選手13名
（監督が出場する場合は，13名の中に登録されていなければならない）

B 女子種目　1チーム監督1名　選手13名
（男子種目に同じ）

(5) 審判会議　昭和38年8月20日午後4時
柏崎市西学校町　柏崎高校図書館

(6) 監督主将会議　昭和38年8月20日午後5時
柏崎高校図書館

▽第6回全日本教職員選手権大会は8月12日，13日，14日の3日間，京都市立体育館で開かれる。
参加資格は教職に携わる者で本部協会に登録ずみの者。

攻に力を注ぎ、得点されてもすぐ取り返すねばりのチームを育成する。

6 審判の判定の統一と、審判、指導者の育成に力を注ぐべきだ。特に地方の指導には日本協会が大いに努力し、普及を考えたら大衆のスポーツとなって見ておもしろくなると思う。

ピッチ走法で

東北学院大

1 速く走ること。ピッチによる走法を身につける。前後、左右への機敏な動き。上下への瞬発的腰膝の屈伸（下肢筋の鍛錬が必要）

2 持久力の養成。機敏性、とくに瞬発力をつける。ボールを大切にし、からだを犠牲にしてボールを守る技術と根性をつける。

3 ハンドボールの適性者ばかりでないから、あるていどまでは練習で養成できる。ハンドボール経験者は毎年一人ないし二人しかはいらない。あとは一般学生から集めている状況です。

4 柔軟性、機敏性の養成。

5 部長以下部員に至るまで団結、落伍者の一掃。この二つは大学チームとして精神的な支柱となる。絶対に勝つという根性をつける。試合数を多くする。

6 5反則の制度を採用すべきだ。反則が無限であることは、コートが小さくなったことによって逆行している。

機敏性を養成

日体大　監督　荒川清美

1 ウエート・トレーニング。サーキット・トレーニング。

2 機敏性のある方法に切り換えた。

3 全部使える。

4 意味がわからない。

5 持久力と機敏性の養成。

6 スピードと変化のあるプレー。そしてまじめにプレーすること。

オールラウンドプレーヤーをめざす

中京大　部長　藤松博

1 機敏性のあるトレーニング、細かい動きを主体にする。上半身特に倒れ込みシュートを練習させるために腕や腹筋のトレーニングをやっている。

2 オールラウンドプレーヤーをめざしている。特にフォーメーションについては交互の攻防のできるように組む。しかし5対5のフォーメーションでなく、大体3対3を主に指導する。防御から攻撃、攻撃から防御の連続練習。

3 フォワードにはバックの練習、バックにはフォワードの練習をさせているので、使えない選手はいない。

4 ポピュラーな競技にしたい。高度な技術が発揮できるようにしたい。観賞して楽しいプレーにしたい。

5 スタミナの養成。サイド攻撃ができるようにしたい。攻防両面にわたる研究とそのあり方。シュート法の改良。

6 バスケットボールなみの審判。攻撃のおもしろさを育成する。（防御の優先をなくす）

視覚の訓練

桃山学院大　監督　馬場太郎

1 特に変わった点はない。しいていえば視覚の訓練とリスト、腕、肩関節の柔軟性、強じんさを主にしたトレーニング。

2 オフェンスからデフェンス、デフェンスからオフェンスのブレーキを機敏に、かつ正確に動き得るようにする。またパスワークを徹底的にやる。ドリブルは絶対に禁止。

3 なし。

4 次項と同じで、選手がゲームをよく理解しなければいけない。ベンチと選手とが隔離してはダメ。有機的なチームワークが必要。

5 ベンチの要求が正確に選手に通じること。スピードと技術。前半、後半とも60分を走り通すスタミナ。攻法のバリエーションを必要とする。

力を出し切る体力

芝浦工大　監督　中沢重夫

1 一定時間フルに力を出し切れる意志と体力。

2 従来の攻撃、防御を別々に練習する形は通用しない。攻守ともこなせるものでなくてはだめ。コートが狭いので、細かく機敏な動作が必要。

3 特になし。

4 攻守をこなせる選手を養成。スピードのない競技はおもしろくない。小人数で小さなコートでできるので、チーム数を増やすこと。

5 瞬時において応用力、気転のきく選手を多くすること。

6 スピードのみ。

8月4日から「全国高校」

〜男子は今年から7人制採用〜

第14回全国高校選手権大会は8月4日から9日までの6日間、全国の各地の激しい予選を勝ち抜いた代表校が参加して山梨県富士吉田市で開かれる。

すでに全国各地では、予選が始まっているが、6月9日三重県四日市工（男）と津女高（女）が代表校に初名乗りをあげたのを皮切りに、続々と出場チームが決まった。7月初旬までには全出場校が決まる。

昨年度の優勝校桜台（男・愛知）、静岡城北（女・静岡）はともに連勝をめざして猛練習を続けている。

桜台高は今年から7人制が採用されるためチームづくりに苦心しているが、伝統の速攻はいぜんすばらしい。静岡城北は5月の県スポーツ祭に13連勝するなど好調。白熱した大会が今年も展開される。

就任のあいさつ

まず基礎固めを

東京都協会会長　渡辺和美

こんど東京都協会の会長に推されました。最初はお断わりするつもりでいましたが、お役に立つことがあればと思いお引き受けすることになりました。なぜ私が最初お断わりしたか。私は自分の会社にハンドボールチームをつくって、ハンドボール協会に側面から応援することを協会の方々に約束しました。その代わり役員にはならないと申し入れました。あくまで第三者として公平な立ち場でハンドボールを見つめる心を決めていました。ところがことし二月の全国評議員会のときから「いまの協会は果してこれでいいのだろうか」と疑念を持ちはじめました。まず東京都協会の土台をしっかり固めないかぎり、ハンドボールの発展はないと信じていました。そこへ会長の話が出たのです。いちどはお断わりしたのですが、諸兄の熱心なご推薦があったので会長就任に踏み切ったのです。

会長としていちばん先にやらねばならぬのは、東京都協会の土台をしっかり固めることです。人員構成、運営状態の基礎を拡充強化し、全国都道府県の模範になろうと思います。都協会が一本立ちしたら、本部協会の一員として球界のために尽力する覚悟です。第二にやることは、東京都総合選手権大会を開くことです。ことし11月に第1回大会を予定しています。ことしは東京都所属チームだけですが、39年から全国からチームを参加させて、夏の全日本総合選手権大会に次ぐビッグ・エベンツに持って行く方針です。陸上競技、卓球は東京都選手権が大きなウエートを占めており、ハンドボールもその線にまで引き上げたいと思っています。第三は実業団チームをもっと増やし将来は全日本実業団ハンドボール協会を結成して、本部協会に大いに協力して行きたいと思っています。こんごとも全国の諸兄諸姉のご支援、ご協力をお願いしておきます。どうぞよろしく。

（大崎電気工業社長）

発展の推進力に

愛知県協会会長　小杉仁造

世界のハンドボール界に堂々と仲間入りをした日本ハンドボール界の進展は、すばらしく前途洋々たるものがあります。

この競技がわが国に紹介されてから二十数年。幾多の苦難の道を乗り越え、日夜指導育成された関係者のご努力には深く敬意を表します。

この輝かしいハンドボール界に、このたび愛知県協会長という大役に推薦されたことは、いまさらながらその使命と責任の重大さを痛感している次第です。

愛知県はハンドボール競技人口二千余人を有し、各種目とも優秀な戦果をあげております。

今後も各種目とも力を蓄えて技術の研究はもとより、精神を練磨して一層の向上を期すとともに、輝かしい歴史を汚さないよう努力する覚悟です。

わが愛知県は、日本のハンドボール界発展の推進力たらんとの決意をもっています。できるかぎりの尽力をしたいと考えています。

最後に全国の選手諸君のご健闘を祈り、関係者のご協力ご支援をお願い申しあげます。

（愛知紡績社長）

人の動き

▽出口林次郎副会長は、5月の東京都体育協会の会議で前期に引続き東京都体育協会長に推薦された。

▽高嶋洌理事長は、1月26日の国体委員会総会で常任委員に選出された。なお委員長は東俊郎氏。

▽福岡県協会長に岡野バルブ製造株式会社の岡野正実専務がこのほど就任した（次号で就任あいさつを掲載します）

38年度登録チーム一覧表

	一般	男子	女子	大学	男子	高校	男子	女子
北海道	4	3	1	2	1	14	14	0
青森	2	2	0	0	0	2	2	0
秋田	4	4	0	0	0	9	5	4
岩手	7	5	2	1	1	7	4	3
宮城	4	3	1	2	2	10	7	3
山形	0	0	0	0	0	5	4	1
福島	2	2	0	2	2	14	7	7
群馬	2	1	1	0	0	8	4	4
栃木	2	1	1	0	0	9	6	3
茨城	8	7	1	0	0	21	10	11
埼玉	6	2	4	0	0	9	4	5
千葉	2	2	0	1	1	31	15	16
東京	18	14	4	16	14	38	23	15
神奈川	7	6	1	1	1	18	13	5

	一般	男子	女子	大学	男子	高校	男子	女子
山梨	3	2	1	0	0	12	7	5
新潟	3	2	1	0	0	4	3	1
長野	7	6	1	0	0	7	4	3
静岡	9	6	3	0	0	22	12	10
岐阜	3	2	1	0	0	16	10	6
愛知	18	16	2	4	4	49	33	16
福井	0	0	0	0	0	4	2	2
石川	8	7	1	1	1	11	10	1
富山	4	3	1	1	1	18	10	8
三重	5	4	1	1	1	15	8	7
滋賀	1	1	0	0	0	9	6	3
京都	12	11	1	3	3	12	9	3
奈良	4	4	0	0	0	7	5	2
和歌山	6	6	0	0	0	5	3	2

	一般	男子	女子	大学	男子	高校	男子	女子
大阪	20	15	5	9	9	42	28	14
兵庫	5	4	1	1	1	17	11	6
岡山	5	4	1	1	1	19	14	5
広島	5	5	0	1	1	15	10	5
山口	9	8	1	1	1	16	10	6
香川	1	1	0	0	0	1	1	0
愛媛	1	1	0	0	0	10	7	3
高知	5	4	1	0	0	8	5	3
福岡	9	8	1	2	2	16	13	3
熊本	4	2	2	1	1	17	11	6
大分	1	1	0	0	0	7	3	4
鹿児島	1	1	0	1	1	6	6	0
計	217	176	41	52	49	560	369	201

大学女子　北海道1，東京2

欧州の7人制を見て

サイド攻撃をやれ！

——技術をこなすスピードを——

世界学生選手権
日本チーム監督　渡辺一己

欧州で学んできた7人制ハンドボールについて書けという注文だが、あまり大きなテーマでいざペンを持ったが、なにから書いてよいやらさっぱり見当もつかない。日本ではことしから全部7人制に切り替えられた。そんな時が時だけに変なことを書くと責任があり、取り返えしのつかないことになってしまうだろう。

いつかあるハンドボール関係者が『外国へ行った人はそれぞれ違ったことをいうので、どれがいったいほんとうなのか、さっぱりわからない。』とこぼしていたのを耳にした。外国へ勉強に出かけるチャンスを持ったものは、少なくともその貴重な経験を日本のハンドボール界に役立てて、ご恩返しをしようとするのは当然である。その結果が『人によっていうことが違う』となるのはその人なりに感じたことを、なんとかできるだけみんなに知らせようとしたが目的を果たさなかったのだろう。ひとつのルールで動いている世界のハンドボールが、多少の解釈の違いはあってもそう極端に違ったのではたまらない。第一そんなことはあり得ないことだ。何回か遠征に出かけて、その人たちがりっぱにプレーして帰ってることをみても、根本的に違いがないことははっきりしている。

日本の審判は世界水準………

私は現行の日本の審判はたしかに世界の標準を行くものであることをまず確認したいと思う。いちいち小さい事柄をとらえればきりがないことで、日本で審判個々に上手、下手、あるいはそれぞれに性格があるようにドイツの中にも、スウェーデンの中にも、フランスの中にも、デンマークの中にも、あるいはチェコ、ルーマニアの中にも、世界中どこに行っても審判によって多少の違いはある。要するに日本では外国に目や耳を貸すのを手柄のように思う傾向があるようだ。日本協会で決められたものを徹底して守るという態度が7人制に変わった直後の現在、過渡期にあるいま、日本のプレーヤーがいちばん心しなければならないことだと思う。こと審判に関しては自分たちのしていることを疑ってはならない。自信をお持ちなさいと声を大にしたい。

ねらえ………

向こうへ行っていちばんいわ

第6回世界選手権

東独が初優勝

第6回世界ハンドボール（11人制）選手権大会は6月3日から9日までスイスのベルンなど各地で行なわれた。参加8チームを4チームづつのA、Bブロックに分け、この結果西独（Aブロック）対東独（Bブロック）の優勝戦となり、14—7で東独が初優勝した。

▽第1日（6月3日）「予選リーグ」

（A組）

スイス　22（12—6、10—8）14　オランダ

西独　23（11—4、12—2）6　米国

（B組）

オーストリア　18—18　ポーランド　引き分け

▽第2日（5日）記録入電せず

東独　21（12—1、9—4）5　イスラエル

▽第3日（6日）

（A組）

西独　20（11—7、9—6）13　スイス

オランダ　11（5—2、6—3）5　米国

（B組）

東独　25（13—11、12—5）16　オーストリア

ポーランド　20（12—4、8—0）4　イスラエル

「予選リーグ順位」

（A組）

1　西独
2　スイス
3　オランダ
4　米国

（B組）

1　東独
2　ポーランド
3　オーストリア
4　イスラエル

▽三、四位決定戦

スイス　10—6　ポーランド

▽決勝戦

東独　14（5—5、9—2）7　西独

「順位」①東独、②西独、③スイス、④ポーランド、⑤オーストリア、⑥オランダ、⑦イスラエル、⑧米国。

▽第1回（1938年）

優勝　ドイツ＝決勝記録不明

▽第2回（1948年）

スウェーデン　スコア不明　デンマーク

（この大会にドイツは不参加）

▽第3回（1952年）

西独　19—8　スウェーデン

▽第4回（1955年）

西独　25—13　スイス

▽第5回（1959年）

ドイツ連合　14—11　ルーマニア

れたことは『日本のハンドボールはテンポが早すぎる』ということだった。『こんな小さなコートであなたたちのようなものすごいスピードで、せっかくの技術がこなせるかどうか考えたまえ』というのだ。いいかえれば確率の高いハンドボールをねらっている「ねらえ」ということになるのだろう。しゃにむに強引な攻撃を繰り返えすのではなく、いちどボールを手にしたら必ず得点とする。さもなければ失点に通ずることを覚悟しなさいということでもあった。もちろん逆襲のチャンスをはじめ、ここぞというときには強引果敢に直線的なプレーを展開する。それがむだと見るや、ゴール前では慎重すぎるくらいノーマークを作ろうと左右、前後にボールを回していた。外人の場合、ボールを完全に片手で握れる。そこからいろいろなトリックプレーが生じ、そのため日本人のように動き回らなくてもすむんだという理屈も出てこよう。それはともかく「技術をこなし得るスピードを保て」という点は注目していい。日本人は外人に比べ、いわゆるコンパスが小さく、相手の一歩を二歩で追いつかねばならないのだから、外人相手の場合は自然早く見えて仕方ない。それ以上のスピードを出し過ぎる。なんどもいうようだが、テクニックを発揮できないほど早いものであり、その結果破れかぶれのショートを打たざるを得なくなる。このような攻撃法はかえってマイナスだという点は、ハンブルク協会トルカ・コーチあたりも強く指摘していた。このトルカ氏はノイスという土地で全ドイツチームと戦ったとき、そのベンチにいたくらいの人だから、以上はドイツを代表する見解と思っていいと私は考えている。

広い攻撃の幅…………

ゴール前では慎重に回すといったが、キーパーなりフィールド・プレーヤーなりが、いちど相手からボールを奪ったあと、相手のゴール前まで迫るスピードはたしかにものすごい。この点は念のため申し添えておきたい。中盤は一気に通過、そこでもし相手の防御陣が手薄だったり、乱れていたりするとすかさず攻撃をしかける。陣が固まったとみるや、次は回し始めるのだ。一度の攻撃で大別して二度の得点のチャンスをねらうということにもなるだろう。逆襲で絶対得点になるような場合を除いて、一回の攻撃に必ずいちどは両サイドにボールを回すこともあちらのプレーの傾向のひとつといえるだろう。どこでだったか『あすのコートの広さは』と聞いたとき『日本チームならコートの幅は10メートルもあればじゅうぶんだろう』とわれわれの幅のない攻撃を皮肉られた。彼らの目にはそれほど日本の攻撃範囲は小さく貧しく見えたのだろう。事実そうだと思った。今後日本の7人制ハンドボールの成長の度合いを見る尺度は、サイドからの得点率がどうあるかでうかがえるといっても過言ではない。現在はその大半が中央付近からなされているはずだ。

片手でボールを…………

以上、まとまりのないことを書き並べたが、たとえばスピードがありすぎるといわれて、それをそっくりそのままウのみする必要もないだろう。日本人には日本人に向いたハンドボールがもちろんあるはずだ。しかしもういちど突っ込んで、ヨーロッパのプレーが片手でボールを握れることから出発したものであるなら、われわれもボールを握れないものかといった疑問を持つことも大切だろう。彼らのテクニックを足、すなわちスピードで補なおうとするのもひとつの方法だ。現在の上に彼らのようなボールを片手で握るプレーができたらどれほどすばらしいだろう。そうなったとき、日本が初めて彼らにカブトをぬがせるときであるかもしれない。

技術研究室

誌上座談会・ゴールキーパー編（第六回）

～練習・試合の勘・欧州のGKを見て～

日本協会常務理事　松本重雄

これは現在トップレベル、そして欧州遠征の経験をもつ四君との誌上座談会です。

補助運動と補強運動

司会　きょうは一流GKのみなさんにいろいろお話しをおうかがいします。まず基礎練習の、ボールを持たない方から…。準備運動についてですが？

今野　準備体操は一般の者と同じですね。

福本　それに柔軟体操を特に念入りにします。

今野　走りながら体の柔軟性と腰のバネをつけるため、じゅうぶんからだを動かし2～3メートルダッシュ、また右足、左足ジャンプなどをします。

篠崎　なわとび、早くそして高いジャンプなどをおりまぜて一〇〇回以上します。

山田　補助運動と補強運動についてどれが私たちにとって区別されていわれているのか、またなされているのかわからないのですが？

司会　いや！　さすが日体大出身者だけにこわい質問だな。現在文部省的解釈では、補助運動とは一応各スポーツのそれぞれの特有の動きなり、技術なりに必要なための組み合さった運動をいう。

補強運動というのは一般的に人間として基礎能力である。たとえば柔軟性、敏しょう性、持久性、リズム感、パワー(瞬発力)、タイミング、巧緻性などといったものを高める事をいう。しかし体協の強化委員会あたりでは、補強を加味し考えられた補助運動がいわゆる効果のあるものなのだから、言葉にとらわれないで強化運動という呼び方をしていると思います。

要するに強化運動の中に一般的力づけの運動を、それぞれスポーツに通じたまた適した運動とがあると解釈されているわけです。

山田　するとボールを扱うためのジャンプボールをはじくための動き、他のハンドボール的な動きは補助運動で、単にジャンプ力をつけるための各種運動が補強運動というわけですね。

司会　そうです。たとえばジャンプ力をつけるためいくらジャンプを繰り返しても限度があり、向上もある程度までです。ジャンプ力をつけるために他の部分、あるいは瞬発力が必要なための一般的な力づけを考え、それを実践する事によってジャンプ力を高めることの方が、より近代的な考え方だ。しかしこの補強は相当苦しく、疲れさせる事が必要で、強く行わなければ効果がないとされています。すると練習時のどの部分に補強運動を入れるかが問題だ。一応練習時の最後がよいとされています。もっとも筋力をつけるための体操的な行き方は準備体操中にもできます。呼吸循環を含む場合は最後がよいと思います。補強運動については、またの機会に一般プレイヤーのものを考えることにします。

福本　手腕がすばやく出る練習には、手を真上あるいは頭上に上げ左右にすばやく降す。また足は左右を真横にはじくような感じで蹴り上げたりします。

山田　ボクシングのフットワークも前後左右に細かく、すばやく動くこともよいと思います。その時手足をいまのように加味して動かすことができるとよいと思います

篠崎　サイドステップ、側倒、前倒、セービングの練習、足の出し方、足での防御などの練習も必要ですね。

司会　要するに各人好みの体さばきによって準備運動的なものが行なわれる。身の安全をはかるため、バレーボールの日紡貝塚のやっている転がり方の受け身の方法も研究する必要がある。

今野　まずゴールキーパーの位置ですが、むかしはゴールライン上またはその近くに位置したものですが、約80センチは前に位置することでしょうね。図1の練習では左右に斜め横に出る練習をします矢印の方向約40度の角度であくまでノーステップです。スピードボールには真横に出たらスピードに押されてしまう。ある程度角度をつけてボールに食いつく練習が必要です。

ここに四つの図を紹介しましょう。図2、3、4、5は手と足を一緒に持っていく練習です。いままでは足で止めるのに足を伸ばして止めることがありますが、これがいちばん悪いとされています。手と足を一緒に持って行くには、足を膝中心に移動することがよいと思います。

福本　からだの中心でボールをとることは今も必要です。余裕があるときは両足でとってもいい。スピードボールの多い現在、またゴールスローにする必要も一つの主義としてある。片手、片足でもボールをはじくことが大きな問題です。

山田　サイドに移動するのは、どのくらいの位置までですか。

今野　普通は図6のように、50センチぐらいですね。

篠崎　その図でいうと、80センチと50センチの交点からやや下がった位置ですね。サイドへの移動のとき、両手で反対側の遠いコーナーを隠しながら移動するといい。

司会　なるほど試合の勘ですね。反対側のコーナーを伸び上がるようにして隠す。いまの位置にいくと、シュートもちょっとできにくくなるわけか。

今野　このとき、手を腰より下げ

寄稿者

司会　松本重雄

今野邦彦（大崎電気）

福本　弘（大崎電気）

山田帆浪（レナウン）

篠崎益野（愛知紡績）

ることは禁物です。特にサイドに行ってしまったときは図7のようになります。

福本　サイドのときは図8のように近目の足を絶対に動かさないこと。遠目はこのように防いだらよいと思います。

司会　そこでボールをシュートしてもらって練習するとなおいいわけですね。シュート防御の練習に方法としてまだありますか。

篠崎　敏しょう性を養うためにゴールにはいり、うしろ向きになって合図により正面を向く。ボールを投げてもらいボールの方向を早く見極める瞬間的動作の練習ですまたゴールにはいり、3メートル近くからスピードボール、フェイントボールなどを投げてもらいゴールスローへの処理の練習などがあります。

孤独になるGK

山田　あらゆる角度から投げてもらい、ポジションシュートのサイドからのとき、コーナーをつぶす練習をします。

福本　足さばきではサッカーのように、ボールを足で処理することになれる必要が大いにあります。しかしこれも蹴ることにこだわると、足が伸びたままのフォームがわざわいする。止めるときも足を伸ばす。つまり反対の足に重心がかかるおそれがあるから、あくまでも止める技術を養ってください

司会　さてゲームのときの勘ですが……。

今野　デフェンスとのコンビネーション、体制、情勢、連絡、攻撃の配合、防御の駆け引きなどいろいろある。やはり精神的に、準備運動なり、チームに対しての信頼感なり、練習の自信などがいちばん大切です。

福本　デフェンスとのコンビにより、このコーナーは自分の穴だからここには投げさせないでくれ。フリースローのさい、片方をサインしてもらって一方的にシュートコースを定めることなどもあります。

山田　なんといっても孤独になりやすいポジションです。それではいけないのですが、勝手な動きとデフェンスとのアンバランスからいちどでも調子が悪いなあと思ったらだめです。すべて精神面のゆとりを持つことが必要です。

篠崎　シュートの最後的なとき、デフェンスが約束したコーナーの逆になるときが一番恐しい。フリースローのさい、シューターの見えないときがいちばんいやですね

司会　それぞれのチームによって作戦的なコンビネーションがあると思いますが、原則的な話はこのくらいにして欧州のGKを見てどうですか。

男は普通女は大型

今野　みなさんもご存じと思いますが、われわれは古い時代のキーパーとして遠征したのですが、1から10まで驚いたことばかりだったのです。まずゴールにへばりついていないこと、どんどん前にとび出すことです。

福本　足を使うこと。顔でも肩でもからだ全体が防御の役割を持っているのには驚きました。チェコのGKは特にそうでした。

司会　つまり女も度胸ですか。

今野　体格は男子の場合はチーム全体から見ると大きくない。むしろ外人の中では中型から小型の部類だと思います。高くても175センチぐらいだったと思います。

福本　やはり大男よりも敏しょう性を重んじるのですね。

山田　女子は反対に大きいと思いました。やはりゴールに対する絶対量があるわけです。前の練習法のところでいうつもりでしたが、各国のGKを見たままを話しますハンガリーのGKは、二人が二個のボールでお互いに動かし合っていました。チェコの場合、壁に向かって約2メートル離れ、壁にボールをはね返えさせて練習していました。ルーマニアは左右へのジャンプかセービング的ジャンプで、腰にスポンジを当てて練習していました。常に自分を大きく見せ、腕の位置は肩の高さで少し力を抜いた姿勢です。一般的に下半身のボールは足で、上半身は案外ボディーを使っていました。両手でキャッチする方が速攻を生かしていると思いました。速攻のスロー練習をじゅうぶんやっていました。センターへのスローはワンバウンドで、走る者の前にスローする。フルバックの右、左のサインがじょうずでした。ゴールエリアの助走を、加速度としてスローに利用していた。

司会　欧州を見てGKの考え方がいちばん変わったと思います。ゴールを守るのではなくシュートを守る。デフェンスの根本的なものを全部消化しているわけですね。

福本　日本はデフェンスが弱いとされているのは、キーパーもデフェンスも考え方を変えて協同すべきですね。

司会・防御のいわゆるハンドボール残酷物語といわれているキーパー諸君の防備はどうですか。

今野　服装ですね。日本人は身軽すぎるようです。皮の手袋（内側がスポンジ、ゴム）も不備だし、キルティングのパンツが少ない。

篠崎　ルーマニアのGKはタイツの上にスポンジのはいったお坊さんの腰げさみたいなものをつけていました。

山田　日本では最近トレーニングパンツにひざ当てをしていますね腰当て、ひじ当ても必要です。身軽なものを考えるべきですね。

福本　欧州の記者が「鉄のようなからだ、コンクリートのようなからだ」と日本のGKを批評していました。なま身のからだをそこまで鍛える必要もある。防備具にたよりすぎると、かえってケガがあります。たとえば突きゆびなど日ごろのキャッチボールや、その他の補強運動で鍛えておくことですゆび先の腕立て伏せも一例です。

今野　総合すると敏しょう性にさわりのない、くふうされたスタイルということですね。肩、ひじ、腰、ひざなどを二重織り、あるいはキルティングするとか、靴も爪をはがさないように先を厚くするとか。足首、すねを傷つけないように考えるべきです。

司会　ほんとうにありがとうございました。全国のハンドボールマンのよい資料となるでしょう。

（図1）

（図2）

（図3）

（図4）

（図5）

（図6）

50cm　80cm　50cm

（図7）

（図8）

韓国学生3勝4敗1分け

国内最初の室内国際戦

日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟は韓国学生選抜チームを招待、韓炳喆団長（韓国ハンドボール協会副会長）ら一行19人は6月5日午後5時20分羽田着のノースウェスト機で来日した。一行の役員の中には、戦前の日体専時代の選手として活躍した洪淳泰、崔東淳両氏の顔も見えた。また一昨年（日体大）、昨年（全日本高校選抜チーム）と二度の交流で選手にも顔なじみが多く、アジアを代表する両国の交流試合らしいなごやかなふん囲気が流れた。今回の国際親善試合は、日本が7人制に統一して最初の国際試合である。さらに国内で室内（7人制）ハンドボールの国際試合が行なわれるのも、このシリーズが初めてという意義深いものとなった。日程は6月7日名古屋での全東海学生との試合を皮切りに東京、大阪、京都、広島、山口で計8試合が行なわれた。韓国は第2戦の対日体大戦で善戦し、25—25の引き分けを演じた。来日成績は3勝4敗1引き分け、二十日博多港から船で帰国した。

（写真は第一戦全東海学生吉田のシュート〔中部日本新聞社提供〕）

全東海、韓国ふり切る

▽第1戦（6月7日、名古屋金山体育館。観衆三千）

「主審」宇津野年一（日体大出）

「副審」横井・長谷川（中京大）

全東海学生 21（10—8, 11—6）14 **韓国**

○…4分25秒、杉本のGKのひざもとをつくシュートを、張がストップ仕損じて0対0の均衡が破れた。

それまで両チームは、互いにチャンスをつかみながら堅くなっていた。この先行の1点で全東海はようやく攻撃のエンジンがかかった。一方韓国はよく走っていたが、滑るフロアに足をとられてラインクロスが非常に多い。屋内での試合経験の浅さがこの失敗を生んだのだろう。15分をすぎると、韓国もようやく本領を発揮してきた。突進するような攻撃を見せ、守っては積極的なカット、強い当たりで全東海の足を封じた。韓国守備陣の出足と当たりの強さは、一応予想されたもののそれは想像以上の強さだった。このため全東海は、いちじは4点差と開いたものの、そのあとはダッシュを止められ、パスも通らなかった。23分には8—7と追いつかれてしまった。全東海はメンバーの若さを暴露したともいえよう。韓国に惜しまれるのは、28分9—8から李が7メートルスローを得ながら失敗して同点機をのがしたことだ。29分逆に全東海の山田—都築のコンビに得点を許して10—8とされてしまった。9—9とすべきチャンスが10—8となってしまったのだから、この1分間に起きた明暗は大きかった。

○…後半全東海も負けじと強引なデフェンスをみせたが、5分間に2本の7メートルスローをとられた。これを徐があざやかに決めて10—10のタイスコアとなった。

同点となって試合はがぜんおもしろくなった。8分45秒インターセプトから李が単身ドリブルで独走、ゲットして13—12と韓国は初めてリードした。

全東海も10分、杉本が右コーナーから大きなフェイントでノーマークとなり、倒れ込んで13—13と三度目のタイスコア。

16分杉本があざやかなカットインで14—13。17分には吉田のシュートをGK張がいったん押さえながら、誤って得点を許すという自殺点で15—13となり全東海のペースとなった。こうなると攻撃力に一日の長がある全東海が22分以後に連続4点をあげ、最後は7点差となった。

○…技術的には凡戦で見るべきものがなかった。韓国チームの攻撃は単調で、すぐれた体力を生かし切れなかったようだ。デフェンスはこの試合では5・1のデフェンス。その出足のよいカットは、日本チームが多いに学ばなければならない点だろう。全体的な技術となると、攻守とも日本との間に一、二年の差があるようだ。もしデフェンスにみせた出足のよさ（脚力）が攻撃の面に出ていた

ら、近い将来に日本の強敵となることはまず間違いない。またボールに対して忠実な動きを見せるのも、日本のプレーヤーは教えられるところがあるようだ。【杉山茂・NHK運動部】

反	得	S	【韓　国】		【東海学生】	S	得	反
6	1	1	姜仁変		桜木兄（名工大）	4	1	4
6	5	9	徐康錫		杉　本（中京大）	19	9	6
6	0	3	任原王		伊　藤（中京大）	11	6	9
3	2	10	李正魯		吉　川（岐阜大）	0	0	1
8	3	3	金秀竜		都　築（中京大）	3	1	3
6	0	3	金弘政		吉　田（中京大）	5	4	4
2	0	0	諸葛王男		横　井（中京大）	1	0	1
3	0	0	金一慶		葛　島（中京大）	1	0	2
2	0	0	尹一成		村　松（名　大）	0	0	0
0	0	1	楊根水		竹　本（中京大）	3	0	3
8	3	8	金京植		近藤恭（中京大）	0	0	0
0	0	0	張裕文	GK				
0	0	0	白仁植	GK	牧（中京大）			
50	14	38		計		47	21	33
			4	7メートルスロー	3			

――来日韓国チーム・メンバー――

団　長	韓　炳喆(51)	韓国協会副会長		
監　督	洪　淳泰(43)	韓国協会理事長		
コーチ	崔　東淳(46)	韓国協会技術専門委員長		
総　務	崔　渡喆(42)	韓国協会理事		
審　判	李　時黙(34)	韓国協会理事		
主将選手	姜　仁変	(慶北大)	171センチ	65キロ
	尹　一成	(成均館大)	173	65
	任　原王	(〃)	174	61
	李　正魯	(〃)	171	65
	金　秀竜	(〃)	169	60
	柳　在碩	(〃)	176	65
	徐　康錫	(慶熙大)	175	77
	金　京植	(〃)	173	63
	諸葛王男	(〃)	172	64
	金　弘政	(慶北大)	173	65
	楊　根水	(〃)	177	72
	金　一慶	(〃)	178	70
GK	張　裕文	(成均館大)	180	64
〃	白　仁植	(慶熙大)	175	67

韓国善戦、引き分く

▽第2戦（6月10日、東京・台東体育館、観衆二千）

日体大 25（16—11, 9—14）25 **韓国**

「主審」李時黙（韓国）
「副審」慶大学生

（評）試合としては実におもしろかった。だが内容はそれほどよくなかった。日体大は自分のペースを忘れ、後半韓国の反撃を許したからだ。日体大は動きが鈍く、しかも思い切って走れなかったのはどうしたことか。逆に韓国はよく走り、そのダッシュ力は日体大のお株を奪ってしまった。日体大の選手は個人プレーに走りすぎた。栗本学長はじめ日体大の学生が見ているので、こうした気持ちがあったのではないか。荒川監督はベンチで必死になって選手を激励していたが、思うようにはいかなかった。後分2分から12分まで日体大はノーゴール。これも珍しい。その間に韓国は徐—任のコンビネーションで得点をあげて18—17と1点差に迫った。徐は韓国のエース、ロングシュートは実にすばらしかった。スピードがあるうえにコントロールがいい。そのスローイングもからだがじゅうぶん乗っているので申し分ない。さすがのGK島崎も手のほどこしようがなかった。後半16分韓国は徐のシュートで20—20の同点、これからが大変、文字どおりシーソーゲーム。28分に日体大の北山がゲットして25—24、韓国も金弘政のゲットで25—25。残る1分間は速攻の応しゅう。GKの好守で得点なく終了。

この試合で韓国のダッシュ力は大したもの。GKのタマ出しもよかった。バスケット式のパス、ターン、スクリーンプレー、フェイント・パスをみせていた。デフェンスは1—5、よく動いて日体の攻撃をつぶしていた。韓国の7メートルスローはいただけない。立ったまま無造作にシュート、それも腕だけである。からだ全体を使っていない。だからGKにとめられていた。5本のうち2本成功しただけ。GKは下半身は強いが上半身は弱い。このゲームを見たかぎりでは、関東学生の明大、中大、早大クラス。ダッシュ力、スピードがあるので、将来が大いに楽しみだ。

（鴬尾武治＝共同通信社運動部）

反	得	S	【韓　国】		【日体大】	S	得	反
5	5	10	姜仁変		石　原	2	2	12
5	11	27	徐康錫		三　友	2	1	7
0	4	13	任原王		林	4	1	8
2	0	0	金秀竜		藤　原	18	8	5
0	0	2	金弘政		北　山	20	8	5
0	1	6	諸葛王男		沢　田	8	5	8
0	0	1	金一慶		上　野	0	0	0
0	0	0	尹一成		山　田	0	0	0
0	0	0	楊根水		華　立	0	0	0
0	0	0	柳在碩		池　田	0	0	0
5	2	5	金京植		瀬　戸	0	0	0
1	2	9	李正魯		結　城	0	0	0
0	0	0	張裕文	GK	中　島	0	0	0
0	0	0	白仁植	GK	島　崎	0	0	3
				GK	高　橋	0	0	0
18	25	73	5	7メートルスロー	2	54	25	48

関東選抜チーム楽勝

▽第3戦（6月11日、東京体育館観衆三千）

関東学生選抜 19（14—1, 5—8）9 **韓国**

「主審」岡村昭二（教大出）

（評）関東学生の圧勝に終わった。韓国は前日の対日体大戦にみせた速攻が少しもなかった。脚力を生かした攻撃が影をひそめたのは拍子抜けだった。前半の関東学生はベストメンバー。青木考—住広の芝浦コンビ、安達—中根—江名の立大トリオ、さらに尾崎（法大）、坂井（中大）、平塚（早大）らいずれも各大学の主力である。（欲をいうならこのメンバーで世界学生選手権に出してみたかった）。したがって試合の主導権は関東学生が握るのは当然のことである。開始直後の1分、まず関東学生が安達のゲ

韓国も7人制一本化
小学校の保健体育教材に

来日した韓国学生チームの監督洪淳泰氏、コーチの崔東淳氏はともに日体出。

戦前の日体の主力メンバーであり、昭和13年の第2回全日本選手権の優勝メンバーだ。

久しぶりに見る日本のハンドボールに『日本のハンドボールも、自分たちの活躍していたころにくらべて、ずいぶん盛んになったものだ。韓国も日本と同様、ことしの1月から7人制に切り替えたが、11人制より中盤の攻防がある。スピード、スリルじゅうぶんなだけに、両国のハンドボールはますます盛んになるだろう』と話していた。

なお、崔氏の話によると、韓国ではハンドボールを小学校の保健体育の教材にするように準備を進めているそうだ。7人制のコート、ボールなどを児童向きに考案し、ルールも若干修正して適用するということだそうだ。

×　　×

ットで先行した。韓国も4分ごろまで善戦したが、5分をすぎると関東学生のペースとなった。厚いデフェンス、GK青木実（芝浦工大）の好守で韓国の攻撃を止めた。しかもGK青木のタマ出し、安達、平塚、新、江名のダッシュ、ノーマークとぴったり呼吸が合い、12分までに8―1と大きくリードした。あるいは韓国ゴール前のゆさぶりからポストプレーをみせて加点するなど、ピックアップチームとしては最高の出来だった。韓国は13分右サイドから左利きの李正魯がロングシュートを決めてやっと1点を返した。韓国はスピードがなく、当たりも弱かった。しかも関東学生の2―4デフェンスを破れず遠目からシュートしたが、いずれも正面ばかりのもの。青木はほとんどこれを止めた。対日体大戦の疲れが出たのか、韓国の動きはどうもうまくない。後半になると関東学生はメンバーを落としたので、韓国は少し生気を取り戻した。22分までに関東は2点、韓国は6点をあげた。関東でちょっと気になったのは後半3分から14分までの11分間ノーゴールだったこと。力があるのだから遠慮せず、もっと得点してもよかったのではないか。あまり点差が開いては、ゲームのおもしろ味を失うという中沢監督の配慮からかどうか。それにしても関東学生が前半にみせたプレーはすばらしかった。

（鷲尾武治＝共同通信社運動部）

第2戦を見て

韓国、体力脚力を生かす

佐野和夫（教大OB）

関東学生リーグで高度なテクニックとスピードをもって上位を占めている日体大に対し、韓国学生チームがいかに戦い、どの程度食い下がるかに興味の大部分と期待が持たれていた。競技前のトレーニングを見ても、韓国はバスケットボール的なドリブル、ジャンプを行なったり、シュートもすご味がない。日本の一流チームに比べてははるかに後進チームの感を受けた。ただ脚力や体力には相当な力が予想された。

主審李時黙氏の笛で試合開始、韓国ボールをカットした日体大が得意の速攻からなだれ込んで先取点をあげた。韓国もよく追いすがり前半の始めに3―2とリードを奪う場面もあった。その後一進一退のゲーム展開となったが、ハンドボール的な動き、シュート力、GKの技術などに大きな差がみられた。日体大と互角のスピードこそあれ、前半終了時には16―11と差をあけられてしまった。

韓国は後半にはいっても特に目だった作戦の変化がみられなかった。ゴール中央付近でよくボールを回して日体大の出足を封じ、最後に韓国チームNO・1の力をもつ徐康錫にロングシュートさせた作戦が成功していた。さらに2人3人のリターンパスからカットインして決めたり、韓国チームとしては持てる力をフルに発揮していた。日体大はたびたびのゴールチャンスを韓国GKの足もとをついてはばまれ、動きがだんだん単調になった。ゴール中央付近で動きが小さくなってしまい、セットプレーもコンビネーション悪く、むりなポストにボールを入れようとしてとられていた。チャンスと思われぬタイミングでシュートを放ったり、ミスが多く目だって本来の力を失ってしまった。特にシュートも単調になり、GKのヤマをはったところへ投げて失敗していたのはあまりにも軽卒であった。デフェンスも前半からしばしばロングを決める徐康錫に対して、前に出る防御がなく後半も同じことを繰り返していた。韓国はこの弱点をよくとらえて強引に攻め、終了近く日体大に追いついて引き分けてしまった。

日体大は常に優位であったがあまりにも無策である。韓国とのスピード競争に終始し、お互いに中盤でのミスやカットの応じゅうなどが多かった。試合運び、ペースの配分、駆け引き、多彩なフォーメーションを忘れた近来にないまずい出来であった。むしろ韓国チームの方がじゅうぶんに体力、脚力を生かし、持っている限りの変化を見せて悔いなく戦った。

韓国チームは豊かなバネを持った脚力を生かし、もっとハンドボール的なセンスを身につければ相当なレベルに達することは間違いない。素質のすぐれたチームである印象を受けた。

桃山大あぶなげなし

▽第4戦（14日、大阪府立体育会館）

桃山学院　30（16―9 / 14―13）22　韓国

「主審」村田（日体大OB）

「スローオフ」桃山学院大

（評）技術的なうまさでは桃山学院が数段上。桃山は体力一方で押してくる韓国チームを文句なく片づけた。

桃山は立ち上がり慎重にローリングを繰り返すばかりで、シュートをねらわなかった。3分いらだってきた韓国デフェンスのすきをつき、五味―大野が軽快な動きで先取点した。ついで桃山は6分ごろから速攻をかけて楽に加点し、10分ではやくも5―0とリードした。桃山の選手はシュート技術、フェイントをかけた身のこなしなど個人技にもすぐれていた。パスワークも実に正確で、ぴったりと息のあったチームプレーをみせて韓国チームを寄せつけなかった。ただ相手に比べてスタミナ不足が目だち、前、後半とも中盤まで大きなリードをしながらなかばすぎからバテだして、韓国チームに追いあげられたのはまずい。攻撃面で速攻が効かなくなったし、守備面でも帰陣がおくれたほかゴール前の守りでミスが続出した。もっとも実力差がはっきりしているせいもあったが、桃山は終始余裕を持った試合ぶりをした。後半21分25―20と点差が5点にちぢまったときでも、あぶなげは感じられなかった。

韓国チームは恵まれた体格を利してつねに力に満ちあふれたプレーを展開しつづけた。しかし技術的水準はまだまだ。スピードがあってもかんじんのゴール前で鈍ってしまうし、スピードにとらわれすぎてパスワークが乱れなんどもパスカットされる浮き目をみた。ローリングはお粗末で単調な攻撃だった。シュートもへた。ゴールの上ばかりねらっているし、投げ入れるときひねり、フェイントを使わないので簡単にGKに防がれてしまった。ポストプレーにこだわったのもまずい。徐選手がダイナミックなプレーで大量点をかせいだ反面、作戦を見抜かれて失点も大きかった。7人制の練習は来日一週間前に始めたばかりだというが、7人制の試合になれていないことを考えれば無理もいえない。総体的にみて韓国チームは荒けず

りというよりは、未完成のチームだ。こまかい技術を身につけていけば、体力にめぐまれているので恐ろしい存在になりそうだ。

（共同通信社大阪支社運動部　菅沼安彦）

×　×　×　×

反	得	S	【韓国】	【桃山大】	S	得	反
5	4	11	姜仁変	中井	3	2	2
12	12	24	徐康錫	坂本	1	1	6
9	1	6	任原王	吉川凱	8	3	5
6	1	4	金秀竜	前田	3	3	2
6	1	3	金弘政	五味	11	8	10
1	0	1	諸葛王男	大野	16	8	9
4	0	1	尹一成	藤林	5	4	1
1	1	2	李正魯	友成	1	0	1
3	2	6	金京植	太田	0	0	0
0	0	0	白仁植 } GK	吉川徹	4	1	3
0	0	0	張裕文 } GK	井富	1	0	1
				GK永上	0	0	1
47	22	58	6　7メートルスロー　8		53	30	41

第5戦以後の成績（詳報次号）

▽第5戦（6月16日、京都市立体育館）
全京都学生選抜 19（11—9、8—7）16 韓国

▽第6戦（6月17日、広島市立体育館）
韓国 19（10—12、9—5）17 広島商大

▽第7戦（6月18日、下松市民体育館）
韓国 24（9—7、15—11）18 下松工ク

▽第8戦（6月19日、徳山市立体育館）
韓国 29（13—12、16—7）19 徳山ク

8戦3勝4敗1引分け

近い将来には好敵手

中沢重夫（関東学生選抜監督）

第3戦を見て

試合はスローオフ直後先取得点をあげた関東学生が、連続速攻をかけて前半大量14点をあげた。一方防御では韓国の徐選手を徹底してマーク、わずか1ゴール許すだけで大勢を決めてしまった。後半に入り韓国の猛攻撃も時すでに遅かった。前半にして勝負をきめた関東学生の攻撃は、平塚(早大)、尾崎(法大)がすばやいスタートから両サイドへとび出し、安達(立大)、中根（立大）が真ん中へなだれこむような速攻をかけた。又一方守備では平塚、尾崎の両者が出足の早さを生かし、早めのアタックをかけた。それに新(芝工大)、坂井(中大)がフォローをしてシュートチャンスと動きを完全に押えた。

それにGK青木実（芝工大）の好守もあって、前半なかばにして試合の主導権を握ってしまった。後半ややもたついたものの主導権を相手に渡さず、個々の特性を生かして試合を有利に展開させた。韓国は前半ポイントゲッターの徐康錫が完全につぶされてしまい攻撃は横に流れるのみと単調そのもの。後半に入り縦の突っ込みを多くし、ようやく本来の味を出して8ゴールをあげた。

さて試合結果からして関東字生にいえることは、前半非常にむだのないうまい攻守であった。しかし後半は一本調子に流れ、もう少し攻撃に変化があったら申しぶんなかった。また個々にいえることは、(1)攻撃面を大きく開いて使ったのはよかったが、せっかくのサイドからのシュートが決まらなかったのは惜しかった。(2)相当なスピードで攻撃をかけているとき、そのスピードに乗り切れず、腰が砕けてシュートおよびパスを誤り、せっかくのチャンスを失ってしまう場面もあった。

韓国チームを見て思うのは金京植の出足、左腕李正魯の動き、金弘政の縦の突っ込み、姜のうまいポストプレーとそれぞれ相当の持味があった。徐一人にたよらずもっと積極的に作戦を組んだら、もっと試合がエキサイトしたことだろう。両チームを比較してみると選手そのものの体格は互角だが、関東学生の方がシュート力、動き出足など一枚上。だが近い将来には日本にとってもなかなかの好敵手となると思う。

最後に関東学生の一選手が反則をとられたとき、不用意にボールをうしろへ転がし、相手スローをおそくするようなフェアでないプレーがあった。第一線のスポーツマンとして恥かしい行動である。お互いに注意して行きたいものである。

（芝浦工大監督）

冷や飯ばかり食っている

楽書帖　第14回

鴛尾武治

▽…私事で申しわけないが、大阪在勤二年で三たび東京へ戻ってきました。東京は私の生れ故郷、ハンドボールの諸兄にいつでも会えるのでうれしい。大阪では馬場副会長、関学監督の渡辺君はじめいろいろの人と接することができ、いままで知らなかった関西球界のことが少しわかるようになりました。これはハンドボールを担当しているものにとっては大きなプラスでした。こんごともよろしくお願いします。大阪駅を出発すると き、丸紅飯田チームの松本君、牧村君らが見送ってくれたのはよい思い出となりました。

▽…11人制がなくなって7人制一本化になったので、全国の高校、大学チームの人たちは苦労していることでしょう。そこで「いったい7人制になってどう変わったか」というテーマでアンケートを出した。私自身も7人制がどのように扱われているかを知りたかったためです。全国の63チームにアンケート用紙を発送し、6月30日現在23チームから回答が寄せられました。要約するならば練習面でスピード、技術面で持久力をつけることに主眼を置いていることがわかりました。あらゆる資料を私だけが持っていても〃宝の持ちぐされ〃になるので、協会の高嶋理事長にこの資料を提出し、機関誌に発表することにしたのです。全国のハンドボール関係者に少しでもお役に立てば幸いです

▽…韓国学生選抜チームが来日したので、歓迎レセプション、第2戦、第3戦に出かけて行った。韓国の選手は身長170センチ以上の大男ばかり。これは実にうらやましかった。日本でもこのくらいの選手をかき集めたら、いまよりもさらに強くなるだろうと思ったほどだ。日本では長身者がいるといずれもバレーボール、バスケットボールに引き抜かれ、ハンドボールはいつも冷や飯ばかり食っている。このへんで協会関係者が本腰を入れて、長身者のスカウトに乗り出してもらいたいものだ。世界選手権はもちろん、1968年のオリンピックのためにも…。1968年にはハンドボールが正式種目になりそうだ。開催地はリヨン(フランス)とデトロイト(米)の争いだが、リヨンが有力)。第2戦を見て韓国のスピードにはびっくりした。さすがの日体大が苦戦の連続。〃灯台もと暗し〃とか。二、三年先きの韓国は強敵になりそうだ。日本はウカウカできませんゾ。ほんとうの話が…。

▽…NHKが二千万円を出して全国高校総合体育大会を計画した。もちろんハンドボールも含まれるわけだが。本部協会の人にこのことをきいたら「ハンドボールとしてはいままでのインターハイでじゅうぶんだと思う。いままでお世話になってきた関係者のことを考えると馬を乗り換えることもできません」。と話していた。

時評

審判不信はもってのほか

関学は二部から出直せ

関西学連のトラブルはなにはともあれ、関学のレフェリー不信が主因である。私は現場にいたわけではないが、各方面からの話を総合してみても関学には全く分がない。プロ、アマスポーツを問わず、レフェリーのジャッジには絶対服従すべきである。これが守れなかったらプレーは成立しない。町や村に見られる草野球でさえレフェリーのジャッジに従っている。それを良識ある大学のベンチを預かる者がジャッジに対して不平不満の態度を示すのは絶対に許されない。スポーツマン・シップに反している。レフェリーを信じられないくらいなら、ハンドボールを止めてしまえばいい。

関学のレフェリー不信は、日本協会審判部への不信である。過去の全日本総合、国体でもあったときく。関学が日本協会へ果し状をつきつけたようなものだ。第一、関学の選手を預かるOBの審判に対するエチケットを知らない。つまり選手たちの教育、しつけ、指導がなっていないから、将来においてこういう事態を引き起こすのだ。これを機会に関学は大いに反省してほしい。関西学連の委員たちは関学勢の圧力に押されて処分を保留したのも騒ぎを大きくした理由のひとつである。桃山学院大が「関学の処分が決まらないうちは試合はできない。対関学戦のスケジュールを延ばしてもらいたい」と筋のとおった申し入れをしているのに、学連はただ予定どおり日程消化を申し合わせてしまった。それで桃山学院大が「当日関学との試合はできない」と言ったら、その翌日委員会を開いてあっさり「桃山学院大の除名、関学のシーズン出場停止」を決めた。関学処分の会議が開けないときに、なにもあわてて桃山大の処分を決めるのも納得できない。奇々怪々な学連の態度である。関学は「死なばもろとも」とばかり桃山大を引きずり込んだと見るのはひが目だろうか。「桃山大も処分してしまえ」という声があったのではないか。つまり関学―桃山大のけんかという見方が圧倒的に多い。事実そうだろう。もしそうだとしたら悲しむべきことである。要は関西学連の学生委員が腰抜けなのだ。関学勢に押しまくられた形だ。学連の中には〃反関学派〃もいるが、これは〃無勢に多勢〃のことわざのとおり多数派に敗れた。学連のとった措置は、これまた全く逆だ。桃山大のシーズン出場停止、関学除名なら筋がとおる。関東学連でも、日本協会でも「処置は全く逆だ」と言っている。レフェリー不信で試合を放棄した例は世界にもない。関学はこのさい、二部から再スタートして大いに自重すべきだと思う。

(この稿投書)

立大が5度目の優勝（12年ぶり）
2位芝工大、3位は日体大

関東学生春季リーグ

関東学生春季リーグ戦は4月28日から5月19日まで上石神井早大グラウンド、芝公園グラウンドで行なわれた。ことし一月の世界学生選手権に与縄、中根、安達を参加させた立大が断然強く、第五日に優勝候補の芝工大を11－10と1点差で破った。さらに第六日に日体大を15－13で倒して優勝の色を濃くし、最終日には早大に圧勝して自力で優勝した。立大の優勝は12年ぶり、5度目。2位芝工大、3位日体大、以下早大、法大、中大、明大、慶大の順となった。なお一、二部入れ替え戦で教大（二部）が慶大（一部）を破って一部に昇格した。

一部

▽第1日（4月28日）
芝工大 26（17－9、9－5）14 法大
日体大 32（13－13、19－3）16 中大
早大 22（12－7、10－10）17 明大
立大 21（12－4、9－3）7 慶大

▽第2日（29日）
立大 21（10－10、11－5）15 明大
芝工大 18（9－5、9－4）9 中大
早大 21（9－6、12－4）10 慶大
日体大 24（13－8、11－10）18 法大

▽第3日（5月3日）
早大 21（12－6、9－7）13 中大
立大 21（13－8、8－3）11 法大
芝工大 26（13－12、13－6）18 明大
日体大 28（11－5、17－7）12 慶大

▽第4日（4日）
立大 25（11－7、14－4）11 中大
日体大 17（10－5、7－7）12 明大
芝工大 24（9－5、15－3）8 慶大
早大 24（13－9、11－10）19 法大

▽第5日（10日）
法大 33（18－10、15－9）19 明大
日体大 29（18－7、11－6）13 早大

▽第6日（12日）
中大 15（9－6、6－3）9 慶大
立大 11（3－5、8－5）10 芝工大
法大 23（10－8、13－2）10 慶大
芝工大 21（11－8、10－7）15 早大
立大 15（6－5、9－8）13 日体大
中大 27（15－10、12－6）16 明大

▽最終日（19日）
法大 23（11－8、12－5）13 中大
明大 28（12－13、16－8）21 慶大
立大 24（12－5、12－7）12 早大
芝工大 17（11－7、6－9）16 日体大

二部

▽第1日（4月28日）
教大 27－8 茨城大
東大 19－13 順天大
防衛大 23－8 東学大

▽第2日（29日）
東大 17－4 東学大
防衛大 23－12 茨城大
教大 29－5 順天大

▽第3日（5月3日）
防衛大 27－7 東大
教大 40－8 東学大
茨城大 18－15 順天大

▽第4日（4日）
東学大 15－14 順天大
東大 14－10 茨城大
教大 19－13 防衛大

▽最終日（19日）
茨城大 13－12 東学大
教大 36－8 東大
防衛大 26－11 順天大

「順位」①教大5勝、②防衛大4勝、③東大3勝、④茨城大2勝、⑤東学大1勝、⑥順天大5敗

		立大	芝工大	日体大	早大	法大	中大	明大	慶大	試合	勝数	負数	得点	失点
1.	立大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	7	0	138	79
2.	芝工大	●	×	○	○	○	○	○	○	7	6	1	142	91
3.	日体大	●	●	×	○	○	○	○	○	7	5	2	159	103
4.	早大	●	●	●	×	○	○	○	○	7	4	3	128	123
5.	法大	●	●	●	●	×	○	○	○	7	3	4	131	137
6.	中大	●	●	●	●	●	×	○	○	7	2	5	104	144
7.	明大	●	●	●	●	●	●	×	○	7	1	6	125	167
8.	慶大	●	●	●	●	●	●	●	×	7	0	7	77	160

三部

日大 45—5 理科大
千葉工大 18—15 武蔵工大
千葉工大 25—9 理科大
日大 14—9 武蔵工大
武蔵工大 33—12 理科大
日大 25—14 千葉工大

「順位」①日大、②千葉工大、③武蔵工大、④理科大

女子

日体大 13（9—2 4—4）6 日女体短大
日体大 12（7—3 5—3）6 日女体短大

▽一、二部入れ替え戦（5月27日 芝公園）

教大（二部）25（9—7 16—8）15 慶大（一部）

教大が一部に昇格

桃山学院が初優勝

西日本学生選手権大会

第3回西日本学生選手権大会は4月25日から28日まで大阪府立体育会館で行なわれた。桃山学院大は準決勝で関学を破り、決勝で広島商大を押えて初優勝した。桃山学院は34年にハンドボール部をつくり、四年目の新鋭チームとして活躍していた。公式大会で優勝したのはこれが初めて。

▽一回戦

山口大 22（12—4 10—2）6 大工大
同大 29（11—4 18—11）15 大経大

▽二回戦

関学 30（14—4 16—7）11 山口大
大市大 24（13—7 11—3）10 大学大
桃山大 35（16—9 19—14）23 立命大
甲南大 30（15—6 15—10）16 大府大
阪大 24（9—11 15—10）21 広島大
広商大 32（16—5 16—8）13 大歯大
関大 22（14—7 8—13）20 神大
同大 23（11—6 12—6）12 京大

▽準々決勝

関学 37（17—8 20—4）12 大市大
桃山大 39（17—7 22—6）13 甲南大
広商大 33（16—7 17—11）8 阪大
同大 30（14—14 16—4）28 関大

▽準決勝

桃山大 19（8—10 11—6）16 関学
広商大 18（10—4 8—11）15 同大

▽三位決定戦

関学 25（15—13 10—6）19 同大

▽決勝

桃山大 26（10—11 16—8）19 広商大

(広商) GK 尾原 FP 原瀬 元野 東 尾田 田伯 / 松相 市村 西河 森和 上佐
(桃山) GK 富井 FP 本凱 田味 野田 川 徹村 西 / 永中 坂吉 前五 大太 川 吉藤 大

広商		桃山
38	シュート	51
32	反則	27
5	7MT	4

広島商大の2連勝

▽中、四国学生リーグ戦

山口大 19—15 広島大
広島商大 38—11 岡山大
広島商大 25—9 山口大
広島大 56—22 岡山大
山口大 28—15 岡山大
広島商大 29—16 広島大

【順位】①広島商大3戦3勝、②山口大2勝1敗、③広島大1勝2敗、④岡山大3戦3敗

7人制一本化に初優勝して

立大OB　勝　繁　夫

三十八年度関東大学春季リーグ戦で、十二年振りに強豪を倒して七戦全勝。意義深い7人制一本化初の優勝の快挙を成しとげたことはうれしい。

立教大学に今回の優勝をもたらしたものは、やはりなんといっても今年の第一回世界学生選手権大会に三人の選手が参加したということである。

安達、中根、与縄は全日本学生チームの中心的存在として、ハンドボールの本場欧州各地を転戦して、外人相手に縦横に活躍した。その自信がさらに彼らの技術に磨きをかけ、他の選手に反映してよい刺激となった。さらにチーム全体にいち早く7人制ムードを盛り上げ、7人制ハンドボール一本化に対する精神面の転換がスムースに行なわれたことにあると思う。

次にチームコンディションが一戦ごとに調子をあげた。チャンスメーカー中根のたくみなボールさばき、強肩の安達の強引なシュート、タイミングのよい江名のシュート、一年生とは見えない落着いた大胆なGK小形のプレーなど。選手各人が自分自分の持ち味をじゅうぶんに生かし、チーム力がフルに発揮された。そして後半戦の対芝浦工大、日体大戦が最高のチームコンディションにあったことである。

春の清水市の強化合宿いらいチームとしての課題であった試合運びのテンポ、攻撃面ではサイドをじゅうぶんに活用する。そしてデフェンスの強化、特に速攻に対する防御、この三点が優勝につながった。7人制チーム編成のさい、ややもするとオフェンス中心になりがちなところを、特にデフェンス強化に本腰を入れたことも成功した。

今度は追う立ち場から追われる立ち場に変わった。これからがほんとうの試練のときだと思う。日々のけんさんを積み、きょうよりはあすへと、限りなき前進を続けて行きたいものである。

関大2年ぶり優勝（2度目）

関学、桃山大事件で全く低調

関西学生春季リーグ

春の関西学生リーグは5月18日関学グランドで開幕、6月9日の甲南大対京大戦で終了した。
途中で関学、桃山事件（別掲）などあって後半はおもしろ味を欠いたが、関大が全勝で2年ぶり2度目の優勝を飾った。

▽一部　第一日（5月18日）
関　学 22（7—6　15—6）12 甲南大
京　大 14（5—7　9—6）13 神　大
関　大 19（12—5　7—8）13 同　大
桃山学院大×立命館大は37—21で桃山学院大が勝ったが、後日桃山除名で無効試合となった。

▽第二日（5月19日）
京　大 21（13—4　8—4）8 立命館大
同　大 21（9—7　12—7）14 甲南大
関　大　試合放棄　関　学
後半25分18—15と関大リードしたところで、関学が判定問題から試合放棄し関大の勝ち。桃山学院大×神大は29—12で桃山学院大が勝ったが、後日桃山除名で無効試合となった。

▽第三日（5月25日）
立命館大 16（8—7　8—6）13 神　大
関　大 24（10—10　10—10：1—0　3—0）20 甲南大
関学×京大は19—6で関学が勝ったが、後日関学の出場停止処分で京大の没収試合勝ち。また桃山学院大×同大は18—11で桃山学院大が勝ったが、後日桃山除名で無効試合となった。

▽第四日（5月26日）
関　大 25（15—4　10—5）9 立命館大
同　大 16（10—5　6—6）11 京　大
甲南大 20（8—8　6—6　3—2　3—1）17 神　大
関学×桃山学院大は桃山学院大が試合拒否。

▽第五日（6月1日）
関　大 24（9—5　15—11）16 京　大
同　大 19（7—6　12—7）13 立命館大
神　大　没収試合　関　学

▽第六日（6月2日）
甲南大 23（12—7　11—15）22 立命館大
関　大 24（9—6　15—5）11 神　大
同　大　没収試合　関　学

▽第七日（6月9日）
同　大 24（8—6　16—6）12 神　大
甲南大 22（9—10　13—11）21 京　大
立命館大　没収試合　関　学

○…今春のリーグ戦は、突発した二つの事件ですべてが狂ってしまった。桃山学院は四月の西日本学生で初優勝し、リーグ戦にはいっても神大、立命を連破、本命同大を後半一気に逆転して宿願の初優勝の望みを濃くしたが、こともあろうに除名処分を受けてしまった。これは球史に残る〃事件〃として記憶されるだろう。
○…優勝した関大は、昭和36年春いらい2年ぶり2度目の優勝。桃山、関学が姿を消したために、初日同大を破った1勝がものをいった。
西日本学生での戦いぶりからリーグ戦前にあまり優勝をうわさされなかったのが、かえって選手の気持をやわらぎさせ、また奮起もさせたようだ。しかし、いま一歩攻撃力に安定感がない。関東勢を向こうに回すには、この点の研究が必要だ。
○…同大は完全に予想を裏切った。7人制をよく知らないところに敗因があろう。昨シーズンの全日本学生王座に出場したメンバーの大半を残していただけに惜しい。立ち直りを期待したい。立命館大が第三日に神大からあげた勝星は、昭和三十四年春神大に勝っていらい四年ぶりの一部での勝利であった。

関西学生春季リーグ（一部）

		関	同	甲	京	立	神	学	勝	負	分
①	関大	×	○	○	○	○	○	○	6	0	0
②	同大	●	×	○	○	○	○	□	5	1	0
③	甲南	●	●	×	○	○	○	●	3	3	0
③	京大	●	●	●	×	○	○	□	3	3	0
⑤	立命	●	●	●	●	×	○	□	2	4	0
⑥	神大	●	●	●	●	●	×	□	1	5	0
⑦	関学	●	■	○	■	■	■	×	1	5	0
※	桃山	……除名……									

○＝勝　●＝負　□＝没収勝
■＝没収負

×××××
海外通信
×××××

チェコ、ソ連が優勝

「ヨーロッパカップ争奪ハンドボール大会」＝欧州各地（参加国は21カ国）

▽男子準決勝
チェコ 9（4—3　5—4）7 西　独
チェコ 24（11—6　13—8）14 西　独
西独は3年連続優勝の夢が破れた。
ルーマニア 14（6—9　8—3）12 デンマーク
ルーマニア 14（7—3　7—7）10 デンマーク
チェコ、ルーマニアが2勝。

▽男子決勝（開催地パリ）
チェコ 15（5—10　8—3：2—0）13 ルーマニア
◎チェコのチームはダクラ・プラハチーム

▽女子準決勝
デンマーク 11—7 ルーマニア
ルーマニア 6—3 デンマーク
（得点差でデンマークの勝ち）
東　独 10—7 ソ　連
ソ　連 12—6 東　独
（得点でソ連の勝ち）

▽女子決勝（開催地プラハ）
ソ　連 11（6—6　5—2）8 デンマーク
◎ソ連のチームはツルド・モスクワチーム

ルーマニア（7人制）不振

今季の7人制で目だったことは一昨年の世界選手権で優勝したルーマニアが、北欧に遠征して連敗した。デンマークに2敗、スウェーデン、西独にそれぞれ1敗した。今季の順位をつけるとすれば次のとおりになる（非公式）。1西独、2チェコ、3デンマークとスウェーデン、5ルーマニア、6ノルウェー、7フランス（東独は強力チームだが、国際試合をやらなかったので順位にふくまれない）。最近の国際試合次のとおり。
デンマーク 13（9—8　4—4）12 ルーマニア
デンマーク 15（6—3　9—7）10 ルーマニア

関西学連のトラブル

張本人は関学ベンチ

関西学生ハンドボール連盟は五月二十七日理事会を開き、同月十九日の関大—関学戦でゲーム中に試合放棄した関学に対して「春季リーグの出場停止」、また二十六日の対関学戦で試合を拒否した桃山学院大を除名処分した。学生スポーツとしてまことに不愉快なできごとである。

ことの起こりは関学の試合放棄に始まり、この処分の手ぬるさが原因で桃山学院大除名の大波紋を巻き起こした。まず関学は対関大戦で15—18の劣勢にあった。残り時間はわずか5分である。しかも関大が攻勢だったので関学の敗色はいっそうに濃かった。ところが突然関学の選手はベンチの命令で引き揚げてしまった。(ベンチには深江コーチがいた。渡辺監督はそのときいなかった。)理由は小西主審の判定に対する不服だ。小西主審は観戦中の馬場協会副会長らの意見を開き、関学の試合放棄を没収試合にした。当然の処置である。関学の主張する『審判のミスジャッジ』が本当にあったのだろうか。小西主審の話を聞いてみよう。『私は協会のルールに従って公平に笛を吹いた。決して関大にえこひいきするような判定はしなかった。私は関大に一人の知人もいないし、むしろ関学の選手に顔なじみがいる。また関学には個人的な憎しみもない。関大びいきしたと関学に誤解されたのは残念だ』。さらに馬場氏に言わせるとこうだ。『判定にミスはなかったと思う。試合を放棄した関学の態度は納得できないし、学生らしくもない』。またあるファンは『審判の判定には非難するほどのミスはなかった。関学はばん回不能の形勢だったので、なんらかの理由をこじつけて放棄したような臭いがする』と手きびしく批判していた。審判に不服があっても試合を完了し、そのあとで機関を通じて正式に抗議すべきである。それがアマスポーツの取るべき態度だと思う。学連は関学の処分について二十一日桃山学院大で緊急理事会を開いた。ところが結果は解釈に苦しむおそまつなもの。『関学の態度は一方的に悪い。しかし審判の判定も常識を逸脱したものが多かった。関学は関大に対して一敗とし、スケジュールは予定どおりに続行。そして関学の処分は後日決める』という。関学の態度を一方的に悪いと決めつけながら、なぜ即座に処分できなかったのだろうか。それとも関学勢に押されたのか。その辺は確かではないが、いずれにしろ常識的にみてすぐリーグ戦出場停止ぐらいの処分はできたと思う。それに審判の判定も悪いとの結論がでている。現場にいた第三者の意見とは正反対の見解である。なにかしら緊急理事会はナゾに包まれたような臭いがぷんぷんとする。そして二十四日の学連委員会は『関学は学連に対しては謝罪文を提出する』との軽処分でチョンになった。ある学連委員は『関学の〝力〟に押された』と前置きしてこう話している。『軽すぎます。もし関学外の大学だったら、どうなっていたかわからない。関学はなにしろ学連の中心勢力ですから……』。また手ぬるい処分との声は各方面からも出ている。なかでも桃山学院大は強く反対、二十六日の対関学戦で試合放棄の強い態度に出た。連盟は前回とは打って変わり、関学に春季リーグ戦出場停止、桃山学院大に除名というスピーディな裁定をくだした。波紋を投げた関学が軽く、その犠牲になった桃山学院大が重罰を課せられたのだ。どうも本末転倒の裁定のように思う。渡辺一巳関西学連理事長は『試合放棄は学生スポーツとしてあるまじき行為だ。桃山学院大の復帰の方法は今後じゅうぶんに検討する』。これに対し馬場桃山学院大監督は真っ向うから反対している『除名は全く一方的だ。理由も不明確だし、承服できない。うちが関学と試合しなかったのは、関学の処分がはっきりしないときでもあるので、日程の最後にやった方がいいと考えたからだ。むしろ関学は事件後自粛して自ら出場を辞退するのが本筋ではなかろうか。とにかく他大学に呼びかけて理論闘争を展開する』と息まいている。関学も悪いし、桃山学院大も申し合わせを破ったのはいけない。今後お互いに反省して再び不祥事が起らぬよう、ハンドボール発展のためにもせつに希望したい。(薩)

スウェーデン 14（5—7，9—7）14 ルーマニア
スウェーデン 16（10—7，6—7）14 ルーマニア
ルーマニア 14（6—7，8—5）12 ノルウェー
西独 18（7—6，11—6）12 ルーマニア
ポーランド 14（6—6，8—7）13 フランス
アラブ連合 26—6 チュニジア
西独 12（4—4，8—3）7 チェコ
スペイン 20（10—12，10—5）17 アイスランド
スイス 35（19—8，16—8）16 ベルギー

各国の近況

▽西独

西独協会は6月の世界選手権大会を前に、ナショナルチームの候補者の強化合宿を4週間にわたって行なった。この合宿は最終的なもので、この間に南西部、南部、北部の各地方で地元選抜チームと試合した。大会前に各選手は医学上の検査と、健康管理のために診断を受けた。この診断にはフライブルグ大学病院のラインデル教授、同大学体育研究所長のゲルシュラー氏があたった。

▽東独

東独協会は同国の上位チームのリーグ戦を開き、東独ナショナルチームを特別参加させた。

▽スイス

4月末からナショナルチームの強化合宿にはいった。このほかナショナルチームの候補選手は、各自の所属チームで、そのチームのコーチから指導を受けた。またかって西独スイス戦のときのフィルムを西独から寄贈され、これを見ながら研究した。なお6月30日のローザンヌで開かれた体育祭で西独スイスの国際試合が行なわれることになった。

▽オーストリア

世界選手権大会に出場するナショナルチームは、ウィルヘルム・ハーラー総監督、ハンス・アンテルスバーガー監督の指導を受けた。この二人は1952年の世界選手権の出場選手だった。

セネガルでアフリカ大会

セネガルハンドボール協会は4月11日から21日まで首都のダカールでアフリカハンドボール選手権大会を開いた。参加国は次のとおり。

フランス、アルジェリア、カルメーン、中部アフリカ、コンゴ、ギニア、象牙海岸、ダメオ、ガーナ、オートボルタ、リベリア、マダガスカル、マリーランド、モリタニア回教共和国、モロッコ、ニジェール、ナイジェリア、シェラレオン、ツシャッド、トーゴ、チュニジア、セネガル。

パリで国際審判講習会

国際ハンドボール連盟は7月17日から21日までパリで国際審判講習会を開いた。場所はパリのバンサンヌ森にある国立スポーツ研修所。

日本から若崎重富、藤本強の両氏が出席した。八月十九日帰国。

体育研究室

ハンドボール選手のトレーニング（I）

―ゲームにおける動作の分析（女子）―

山本隆久

トレーニング方法への糸口

合理的なトレーニング方法の確立は選手にとっても、指導者にとっても重要なものである。その良否は直ちに勝敗につながるものである。トレーニング方法を誤った場合には、選手の潜在する力を十分にひき出すことができずに終ったり、迂遠な上達への道をたどることにもなるであろう。

ボールゲームにおけるトレーニングには、技術、体力、精神力の三面が考えられ、それらが平行して行なわれることがのぞましい。ハンドボールにおいても例外ではなく、激しい身体の動作、たくましいファイト、細かいボールハンドリング、これらはどれ一つとして欠くことの出来ない要素である。

優秀な技術の持主でも長時間の練習やゲームに耐えられなければ持てる技術は役にたたず、又、いかに強靱な体力を持つ選手でも、技術がそれに伴なわなければ無用の長物となりかねず、両者がいかに優れていても旺盛な精神力がなければ勝利にはほど遠い。

トレーニングはすべてゲームにおける勝利を目標として組みたてられている。自分の力を知り、たりない点を補い、ゲームにおいて全力が発揮できるようにするのが合理的なトレーニングである。従ってトレーニング方法はゲームに直結し、ゲームからトレーニング方法が導き出されるといえよう。

このような観点からトレーニング方法を考えていくためにはハンドボールのゲームの内容を十分に知ることが必要とされる。すなわちゲームでどの動作が、どのくらい、どのように行なわれているかを知らねばならない。

ゲーム中の動作分析

今回はゲーム中の動作について体力的な面の分析―どのような動作が、どのくらい、行なわれているか―を試みたものである。

ゲーム中の動作には時間で測定できるもの（主として体力的なもの）と、回数によって記録できるもの（主として技術的なもの）に分けられる。時間によって測定できる動作はタイム・スタディ法（Time Study）―時間を追って、動作を記録する―を用い、動作をテープレコーダーに吹きこんで再生し、ストップウォッチで同一動作の持続時間を計時（積算）した。動作の分類は第一表の通りである。

被験者は全日本女子代表チームとの歓送試合に出場した関東選抜女子チーム中、GK 1（延べ三人）で、FP 3（延べ八人）で、ゲームの開始から終了まで、前後半各20分間の動作を記録したものである。（延べ人数は交代して選手を含めた人数で集計、計算の場合には一人として扱った）

第一表

項目	備考
1.立ち	
2.歩き	
3.走りI	6〜7m/secの走
4.走りII	2〜4m/secの走
5.フットワーク	
6.ドリブルI	4〜6m/secのドリブル
7.ドリブルII	1〜3m/secのドリブル
8.構え	
9.転倒	

分析の結果とその考察

動作分析の結果は第二表の通りである。

GKについてみると、各動作は前後半ほぼ差がなく（前半は一人で、後半は延べ四人である）全試合中の動作の中、立っている状態が約1/3（三五・〇七%）を占め、ついで歩いている時間も約1/3（二九・二〇%）でこれに次ぐ。フッ

第二表

動作＼選手・ゲーム	G.K. 前	G.K. 後	F.P. 前	F.P. 後	F.P. 前	F.P. 後	F.P. 前	F.P. 後	F.P.計 前	F.P.計 後	計 G.K.	計 G.K. %	計 F.P.	計 F.P. %
立ち	6′45″4	7′16″4	5′30″4	2′54″7	1′14″6	47″0	3′51″5	1′45″2	10′36″5	5′26″9	14′01″6	35.07%	16′03″4	13.36%
歩き	6′34″2	5′06″7	1′56″8	5′16″1	6′55″2	6′45″0	6′18″2	7′19″2	15′50″2	19′20″3	11′40″9	29.20%	35′10″5	29.27%
走りI	40″0	32″6	42″3	1′35″4	1′19″7	1′30″5	1′28″3	1′30″9	3′30″3	4′36″8	1′12″6	3.02%	8′07″1	6.76%
走りII	44″3	1′16″8	8′20″5	6′46″9	5′14″2	5′22″6	5′40″7	5′31″1	19′15″4	17′40″6	2′01″1	5.05%	36′56″0	30.74%
フットワーク	4′09″0	4′29″0	1′05″8	21″4	4′12″1	4′15″4	2′04″9	2′42″7	7′22″8	7′19″5	8′38″0	21.58%	14′42″3	12.24%
ドリブルI	—	—	1″9	3″9	3″1	3″3	3″1	—	8″1	7″2	—	—	15″3	0.21%
ドリブルII	—	—	5″8	7″1	—	0″6	1″9	14″5	7″7	22″2	—	—	29″9	0.41%
構え	1′09″0	1′01″4	2′56″8	2′27″6	1′07″0	31″3	41″0	27″6	4′44″8	3′26″5	2′10″4	5.43%	8′11″3	6.81%
転倒	3″9	11″6	2″1	—	1″9	7″5	5″5	—	9″5	7″5	15″5	0.65%	17″0	0.24%
計	20′06″8	19′64″6	* 20′41″4	19′57″9	20′07″8	○ 19′23″2	* 20′28″1	19′31″2	61′17″3	58′62″3	40′00″3	100%	120′09″6	100%
メンバー（延人員）	1	4	1	3	1	3	2	2	4	8	5		12	

（○…交代のための空白40′′3がある。*…free throw のために終了後しばらくコートにとどまる。）

トワークが二一・五八%とＧＫの特色を表わしている。

ＦＰ（前半は延べ四人、後半は延べ八人である）は走りⅡが$1/3$（三〇・七四%）、歩きが$1/3$（二九・二七%）フットワークが約$1/5$（一二・二四）でＦＰは常に動いていることが示されている。

各種の動作についてみてみると

立ち…ＦＰに比べてＧＫが多いことは当然といえる。ＦＰの一三・三六%は恐らくタイムアウト時の状態が大部分であろう。

歩き…ＧＫとＦＰとの間にほとんど差がなく、各約$1/3$を占めているが、ＦＰの歩きの動作が多すぎるようにも考えられる。

走りⅠ…ＦＰがＧＫの二倍になっているが六・七六%ということは、ＦＰの歩きが多いのに比べて、ゲーム中の動きとして一考を要する面ではないかと思われる。

走りⅡ…ＦＰでは最も多い%を占めていることは当然であり、走りⅠと関連させて、トレーニング方法に大きな影響を有するものであろう。

ドリブルⅠ及びⅡ…ドリブルの時間が少ないことは７人制の特色。ドリブルそのものは重要な技術である反面、多用されることが少なく、主としてパスワークによってボールを回していることが裏付けされよう。

フットワーク…ＧＫがＦＰの約２倍であることを示しているが、これは当然のことである。ＧＫＦＰともに守備の場合に多く表われる。

構え…ＧＫ、ＦＰとも同じくらいの%を占めている。

転倒…ＧＫの方がＦＰより多いが、その回数に比べて起き上がりの動作が早く、時間は一五・五秒と非常に短い。

トレーニング方法への示唆

体力的面からを中心としたゲーム分析からトレーニング方法への示唆を求めるならば次のようなことが考えられる。

ＧＫについては、フットワークの練習が非常に重要な位置を占めることがわかる。ＧＫの動きでは立ち、歩き、フットワークの関連性が大きくクローズアップされるのではないかと思う。

ＦＰについては、歩き及び走りⅡの関係が、その各々の量との組み合わせで、トレーニング方法に考案されねばならないのではないだろうか。

今回の分析の結果からは、主として体力的面の、特に量的なもののみについて考察してみたが、これだけでは完全とはいえない。トレーニング方法に直接とり入れるためには、さらに質的なもの、つまり各動作間の関連を見きわめる必要がある。すなわち、ＧＫが最も必要とされるフットワークが、他のどのような動作から行なわれるか、あるいは、ＦＰの走りⅠが走りⅡから行なわれることが多いのか。フットワークからか、歩きからかなどの問題を解明していかねばならない。フットワークを長時間実行し得る能力にいかにすぐれていても、ダッシュ力にすぐれていても、瞬発的にその動作に移れるようにしなければ、ボールゲームでは必ずしも有効ではない。

さらに一回の動作がどれくらいの時間、持続されるかということも問題である。これらの問題については技術的面の分析とともに次号で述べる。

ボールゲームで、特に走運動が主要な位置を占めるゲームにおいては、ボールハンドリングの技術との関連性を無視してトレーニング方法を組み立てることは不可能に近い。スピードをあげ、持久性を高めるためには、走運動のインターバルトレーニングを考慮することに努力しなければならない。

（注）このレポートはハンドボールゲームのエネルギー代謝を求めるべく測定された資料を基にしたものであることをお断りしておきたい。

また、僅か一ゲームのみの資料から問題を解明することは不可能であるが、全日本最強の女子チームの対戦で、国内最高のゲームであることを考えれば練習、指導の参考にして頂けるものと思われる。

この研究を行なうに際してご指導を頂いたトレーニングドクター広田広一先生、日本協会高嶋冽理事長、松本重雄指導普及部長、勝繁夫強化委員にお礼申し上げるとともに、ご協力頂いた東京大学教養学部田中純二氏、小山秀哉氏、並びに東京教育大学ハンドボール部員に感謝致します。

ニュース

日本ハンドボール協会は11月に韓国高校選抜チームを招待することをきめた。

またチェコ女子チームを招待することになっていたが、チェコから「訪日できない」と連絡があった。

連載第五回

ハンドボール球史

戦前の中学大会と戦後の各種大会

全日本中等学校選手権

▽**第一回大会**（昭和15年10月、明治神宮）

（男子一回戦）
東邦商（愛知）3—2 静岡師範（静岡）
青山師範（東京）9—0 関西中（岡山）
天王寺中（大阪）7—1 浦和商（埼玉）

（男子準決勝）
東邦商（愛知）3—1 新京商（満洲）
青山師範（東京）4—2 天王寺中（大阪）

（男子決勝）
青山師範 5（3—0、2—3）3 東邦商

	（東邦）	（青山）
GK	増田	斎藤
FB	犬飼 柴田	田中 佐藤
HB	八木 杉 丹羽	比木 村野 唐沢
FW	川瀬 鈴木 萩本 村瀬 伊藤	山戸 坪内 橋本 蓬田 小島
FT	1	1
GT	22	10
CT	3	5
PT	12	3
13M	0	0

注＝女子は一般女子の部に出場した。

（一般女子一回戦）
倉敷高女（岡山）不戦勝 茨城女子師範（茨城）

（準決勝）
倉敷高女（岡山）4—2 日体女子部（東京）
梅花高女（大阪）1—0 静岡高女（静岡）

（決勝）
倉敷高女 3（1—2、1—0、0—0、1—0）2 梅花高女

	（梅花）	（倉敷）
GK	平山	太田
FB	内田 草苅	三好 松田
HB	奥野 高木 熊沢	岡村 菅沼 三宅
FW	中村 加藤 山村 古田 植山	川上 西山 山本 片山 横溝
FT	10	8
GT	7	5
CT	0	0
PT	0	0
13M	1	0

▽**第二回大会**（昭和17年10月20、25日。日体グラウンド、青山師範グラウンド）

（一回戦）
豊中中 3—0 熊本商
府立工芸（東京）不戦勝 徽文中
東邦商 5—1 関東学院
天王寺中 5—0 智山中

（準決勝）
豊中中 8—0 府立工芸
天王寺中 5—2 東邦商

（決勝）
豊中中 6（4—2、2—2）2 天王寺中

（評）関西の雄、豊中中と天王寺中との対戦。技術、体力とも互角で最初から接戦となった。前中4—2とリードされた天王寺は後半猛烈な反撃を試みたが及ばず、豊中中の優勝となった。
（注）＝女子の大会は開かず。

戦後の各種大会記録

▽**関東女子トーナメント**（21年6月23、24日東京女高師）

（一回戦）
埼玉師範 9—0 明大
日体OG 3—1 日体

（決勝）
日体OG 2—0 埼玉師範

▽**第一回早大—関学定期戦**（21年11月22日、西宮）
関学 5—4 早大

▽**東京クラブ対明大定期戦**（21年10月6日、女高師、東京第一師範）
東京ク 5—2 明大
東京ク 8—3 明大
明大 5—4 東京ク

▽**第七回東西対抗**（昭和22年1月19日、西宮）

（男子一般）
全関西 5—2 全明大

（女子一般）
全関西 2—1 全関東

▽**憲法施行記念東京都民大会**（昭和22年5月4日、明治神宮）
在京OB 3（1—0、2—2）2 在京学生

▽**第一回東日本選手権大会**（昭和22年6月28、29日、7月6日、女高師）

（一回戦）
全日体 13—2 明大B
文理大 8—2 水戸高（旧制）
明大A 11—2 日体
法大 5—4 慶大

（準決勝）
全日体 4—2 文理大
明大A 8—0 法大

（決勝）
明大A 11—8 全日体

▽**第一回全国高校（旧制）大会**（22年7月23〜25日、京大）

（一回戦）
水戸 4—2 四高
甲南 6—2 三高

（準決勝）
大阪 9—3 水戸
甲南 8—0 浪速

（決勝）
大阪 11—1 甲南

▽**東日本中学選手権大会**（22年7月5、6日、東京重機工業）

（男子準決勝）
鎌倉中（神奈川）2—2（抽選）成城中（東京）
都立重機工（東京）9—6 関東学院（神奈川）

（決勝）
重機工 8—1 鎌倉中

（女子一回戦）
平塚女（神奈川）7—1 横須賀女（神奈川）

（決勝）
平塚女（神奈川）2—1 第一師範女子部（東京）

▽**第五回関東高専大会**（23年6月25日〜27日）

（準決勝）
明大A 5—2 文理大
日体A 12—0 明大B

（決勝）
日体A 4—2 明大A

▽**全国高校（旧制）選手権**（23年7月29日〜30日、京大）

（準決勝）
大阪 6—3 甲南
浪速 4—3 四高

（決勝）
大阪 5—4 浪速

▽**関東学生予科リーグ**（23年11月13日〜28日、東休見）
①日体6勝1敗、②早大5勝1敗1分、③法大3勝2敗2分、④明大、⑤文理大、⑥慶大、⑦甲大、⑧立大

▽**第一回東日本一般選手権**（23年7月10、11日、東休見）

（男子準決勝）
茗溪ク 4—3 駿台ク
全日体 3—1 三田クB

（決勝）
全日体 6—3 茗溪ク

（女子決勝）
東京一師ク 4—1 埼玉師範ク

地方球界の歩み

北から……南から……①

青森県

昭和26年に太田尚充氏(教大出)が、青森県立青森高等学校に初めてハンドボール部を創設したのがきっかけ。このとき同時に県協会がうぶ声をあげた。最初は所属チームが青森高校、弘前高校の二つだけであったが、その後29年に一般男子青森クラブ、30年弘前大学、34年青森商業高校、37年青森高校女子、38年青森教員クラブチームが生れ、現在高校男子2、高校女子1、一般男子3の6チームがある。

この間大きな行事としては29年36年に東北選手権大会兼国民体育大会東北地区予選会を開催した程度で、年々遅ればせながらも普及を見ている。所属チームは協会設立三年目の29年あたりから東北管内で優勝を争う（29、30、31年の青森高校）まで成長し、前途明るいものを思わす時期が続いた。しかし最近指導者の不足から残念ながら低迷状態にある。32、34、36年の青森クラブの活躍はすばらしく、東北代表として国体出場、35年に青森高校が全国高校選手権の三回戦進出。この中から長内和男(日体大出)、斎藤浩(教大出)、高橋利孝（教大出）各氏の指導者が生まれ、今後の県協会の主柱になったことは心強いものがある。

現段階では他県の隆盛に比べ劣勢にあることはまぬかれません。県協会としては鹿内一胤会長、太田尚充、川島卯太郎（教大出）両副会長、福士義昭理事長はじめ、各関係者は特にこのことを痛く胸にとどめ、今後の隆盛を期している。これまで普及の妨げであった指導者数不足もどうやら解決されつつある。今後は県民の本競技への関心を深めてもらい、近い将来にぜひ東北制覇、全国大会上位進出を果すべく努力している。全国のハンドボール愛好者ならびに関係者の限りなきご支援とご指導をお願いしつつペンを置きます。

（青森県協会事務局長　斎藤浩）

岩手県

一、協会設立は昭和24年9月。加盟チーム28、本県で開催された主要大会は

第3回東北選手権大会（昭25年）
第3回東北地区大学大会（27年）
第6回東北選手権大会　（28年）
第10回東北選手権大会　（32年）
第9回東北地区大学大会（33年）
東北、北海道地区学生選手権大会　（36年）

二、本県の競技成績概要

①東北選手権大会

優勝　高校男子
　通算10回（24〜37年）
　一般男子
　通算7回（〃　〃）
二位　高校男子
　通算4回（〃　〃）
　高校女子
　通算3回（〃　〃）
　一般男子
　通算5回（〃　〃）
　一般女子
　通算8回（〃　〃）

② 国民体育大会

第二位　第16回大会　盛岡一高
第三位　第6回大会　盛岡一高
第四位　第8回大会　白亜クラブ
第五位　第7回大会　盛岡一高
〃　第12回大会　盛岡一高
〃　第15回大会　盛岡一高
〃　第16回大会　白亜クラブ
〃　第17回大会　盛岡一高

宮城県

昭和23年6月に宮城県送球協会が設立され、阿部来太郎が会長に推されて発足した。その前後の5月、6月に普及講習会を開き、参加チームは男子5、女子7という多数を得た。本県は東北地方での発祥地であろう。現在（昭和37年度調べ）では、高校11、大学2、一般6の計19チームまでに発展した。この間の歴代会長は次の通り

初代　阿部来太郎
　（昭和23年〜昭和28年）
二代　藤江喜久雄
　（昭和29年〜昭和34年）
三代　松川金七
　（昭和35年〜現在）

主なる戦績は次の通り。

第六回国体(涌谷高(女子)2位、仙台クラブ(女子)3位)
第八回国体（仙台クラブ(男子)3位）
第十四回国体（涌谷高（女子）2位）

以上の戦績を回顧すると、本県としてこれという成果をあげていない。その理由としては、歴史が浅く競技人口の少ないのが原因であろう。上位に進出している県をみるとみな中学校体育連盟に加入している。本県もこの方面の発足を強く要望する。（福島富造）

終わりに主なる開催大会は次の通り。

第10回全国高校選手権大会（昭和34年）
日本対ルーマニア国際親善仙台大会（昭和35年）
第5回全日本学生選手権大会（昭和37年）

福島県

協会設立は昭和22年12月、初代会長は細川昌男（現在県立白河高校長）、現会長は丹治盛重(丹治医院院長)。加盟チームは男子高校7、女子高校7、一般男子3、一般女子1、大学2、中学は男女とも2。

大会開催は次のとおり。

昭和23年9月　第1回東北選手権大会（福島市）
昭和26年7月第2回東日本高校選手権大会兼東西対抗東日本予選（福島市）
昭和27年10月　第7回国体開催（福島市）
昭和30年9月　第8回東北選手権大会兼第10回国体東北予選（郡山市）
昭和33年9月　第11回東北選手権兼第13回国体東北予選（郡山市）
昭和37年9月　第15回東北選手権大会兼国体東北予選

栃木県

協会設立は昭和22年4月、現在の加盟チームは一般男子4、一般女子2、高校男子6、高校女子3である。

一、38年度新役員

会　長　長竹寅治

現事長　渡辺　繁

現　事　細井操、高橋隆夫、柿沼郁二、菅間一、石川武良、和賀井俊夫、小林逸郎、山下勝司。

一、開催した大会

昭和28年9月　第8回国体関東予選（宇都宮市）

昭和32年7月　第3回関東高校選手権大会（足利市）

昭和37年9月　第9回関東選手権大会兼第17回国体関東予選（足利市）

茨城県（1）

昭和22年、土浦市に疎開していた日体大の手で県協会が創設された。そのころのチームは旧制の麻生中、土浦中、水戸工業の3チームで、これが母体となった。麻生中は第2回国体(金沢)に出場し、8—0で天王寺中に敗れた。また土浦中は東日本大会で世田谷工業を3—1で破って活躍した。23年には麻生高が東日本大会で三回戦まで進み、水戸一高は第3回国体（福岡）に出場した。24年には潮来高、太田二高の女子チームが誕生し、25年の第一回全国高校で潮来高が第3位に入賞して関係者を驚かせた。9月には水戸で関東大会を開き、麻生高、太田二高が優勝し、名古屋国体でも活躍した。26年に第1回県総合選手権大会を開催し、男子10チーム、女子5チームが参加した。これでようやく充実した感があった。27年、28年には全茨城（男子）が国体に連続出場、北海道の国体にも全茨城が出場した。30年に室内ハンドボール講習会を開き、本部協会から徳永陸繁氏を招いた。室内選手権を開催し、男女計11チームが参加した。第1回関東高校選手権大会を土浦市で開催した。女子高校の勢力は潮来高—太田二高—水海道二高と移った。水海道二高の育成に努力した小林六七氏（同校教諭）が合宿中に急死し、選手たちは遺影を抱いて第6回全国高校に出場し見事初優勝した。その後現監督の砂長誠氏の指導で第10回国体で4位となり、水海道二高全盛の基礎を築きあげた。31年には全茨城(男)も充実し、関東大会（成田市）で東京クラブを破って初優勝、兵庫国体にも出場した。33年には県協会の実力はますます向上し、静岡国体には全茨城（男子、女子）、水海道二高が出場、全茨城（女）が3位、総合6位となって皇后杯得点3位。水海道二高は第8回全国高校で2度目の優勝を飾り、県協会創立十周年を記念して「茨城県ハンドボール史」を発刊した。男女計37チームによる記念大会、第1回県中学校大会を開くなど、十年にして第一段階の目的を達することができた。（次号につづく）

神奈川県

ハンドボール競技が本県にはいったのは昭和15年ごろである。当時日体で活躍していた若崎重富氏（現県協会理事長）が、母校関東学院中学部に教えたのが最初である。昭和17年に全日本中学校選手権大会が東京青山師範グラウンドで開催されたとき、関東学院中学部が出場したのが公式戦の初参加。その後第二次世界大戦のために空白時代があった。

戦後横浜(関東、希望丘、翠嵐)鎌倉（鎌倉学園）地区でハンドボールを練習する選手をみるようになったが、技術の進歩も普及も牛歩の状態であった。しかし昭和29年平塚市で全日本総合選手権大会が開催されたのが大きな刺激となって急速に普及発展し、国体、全国高校選手権などを開いて実績をあげるようになり今日に至っている。（三浦公）

一、協会設立年　昭和24年4月

二、初代会長　保坂周助（現神奈川県参事、神奈川県オリンピック課長）

三、設立当時の加盟チーム

一般　男3　〃　女3

高校　男4　〃　女2

四、昭和38年度加盟チーム

一般　男6　〃　女1

教員　1

高校　男13　〃　女5

五、大会開催記録

昭和26年　第6回国体関東予選　9月　横浜市金沢中

〃　29年　第6回全日本総合選手権大会　11月21〜23日　平塚市高浜高、大洋中

〃　30年　第10回国民体育大会　10月30〜11月3日　同右

〃　〃　第2回全日本総合室内選手権大会　3月10〜13日　平塚市見付台体育館

〃　31年　全日本学生対西独国際親善大会　9月16日　横浜市平和球場

〃　34年　第5回関東高校選手権大会　7月26〜29日　藤沢市県営総合運動場

〃　35年　全神奈川対ルーマニア国際親善大会　7月2日　横浜市三ッ沢球技場

〃　36年　第8回関東選手権大会第16回国体関東予選　9月9〜10日　横浜市蒔田公園

〃　37年　第5回全日本教職員選手権大会　8月11〜12日　横浜市文化体育館

岡山県（1）

岡山県のお家芸とまでいわれたハンドボールは、古い伝統と幾多の輝かしい成績の上につちかわれ県民に愛されてきたのである。

この古い伝統が戦後の用具や設備の不足の困難な時代からいち早く立ち上がった。永井監督のいた倉敷工業高校は競技用のユニフォームにワラジばきという姿で全国大会に出場した。

女子の青陵高校は全国高校、国体で優勝し、また高校男子もいつも優勝候補にあげられていたのである。

また一般女子も国体に優勝した戦績がある。そしてまたこういう試練期にあって、岡山県の伝統を守った人たちが大学（日体大大西富男、川上克己、永井忠和）、実業界にはいって活躍し、日本のハンドボール界に岡山県選手の多いことを示した。

しかし日本のハンドボール界は日進月歩の向上ぶりである。現状はその技術もおそろしい勢いで向上しているが、各地方ではいろいろな事情のため他の競技に押されぎみだ。ここに私たちに課せられた使命があるのではないだろうか。（次号につづく）

地方だより

◇都道府県大会記録◇

青森

◇第12回県春季選手権（5月3日〜5日、青森高）

（男子高校リーグ）

青森高 12－6 青森商
青森高 16－10 青森商
青森高 15－11 青森商

（一般男子）

▽準決勝（一試合）

弘前大 7－5 青商ク

▽決勝

青森ク 18（8－3、10－4）7 弘前大

宮城

◇第7回県総合選手権兼第15回全日本総合県予選（5月11、12日仙台二高）

（一般男子）

▽一回戦

東北大 42－7 育英高
TGク 20－18 古川高
仙台商 17－13 宮城教員団
仙台一高OB 20－10 仙台商OB
東北学院 16－6 ハーネス
仙台二高 27－6 育英OB
古川工OB 21－7 仙高

▽準々決勝

東北大 16－10 仙一高
TGク 16－9 仙台商
東北学院 13－3 仙台一高OB

▽準決勝

古川工OB 13－10 仙台二高
東北大 9（4－3、5－5）8 TGクラブ
東北学院 24（16－3、8－9）12 古川工OB

▽決勝

東北学院大 16（8－0、8－4）4 東北大

◇県高校リーグ（4月20〜28日、仙台二高、涌谷高）

（男子）①古川工6勝 ②古川高4勝2敗 ③仙台一高4勝2敗

（女子）①涌谷1勝 ②宮城三女1敗。

福島

◇第14回春季選手権（5月12日、福島大）

（高校男子決勝リーグ）

福島 32－6 聖光学院
安積 37－5 聖光学院
安積 12－10 福島

（高校女子）

▽準々決勝

緑ヶ丘 5－4 梁川
郡山女 不戦勝 若松一

▽準決勝

小高農工 7－4 緑ヶ丘
郡山女 6－2 福島女

▽決勝

小高農工 7（2－2、5－4）6 郡山女

（一般男子決勝リーグ）

福島大学学芸学部 15－13 安積ク
福島大学学芸学部 14－11 教員ク
安積ク 不戦勝 教員ク

東京

◇第16回都民体育大会（5月3日〜5日、新宿区戸塚一中）

▽男子一回戦

宮前ク 12－11 若木ク
安田生命 10－8 神代ク
明星ク 不戦勝 高井戸ク
中野一中クラブ 16－5 城南ク
洗足ク 13－8 明正ク

▽男子準々決勝

大崎電気 33－1 宮前ク
マルマン百貨店 14－8 安田生命
明星ク 20－11 中野一中クラブ
洗足ク 不戦勝 江東ク

▽男子準決勝

大崎電気 不戦勝 マルマン百貨店
明星ク 16－13 洗足ク

▽男子決勝

大崎電気 26（12－5、14－6）11 明星ク

▽男子三位決定

マルマン百貨店 24－10 洗足ク

▽女子リーグ

レナウン 25－1 鉢山ク
大崎電気 18－2 ジューキミシン
レナウン 15－6 ジューキミシン
大崎電気 35－0 鉢山ク
ジューキミシン 20－2 鉢山ク
大崎電気 10（4－3、6－0）3 レナウン

「順位」1大崎電気 2レナウン 3ジューキミシン 4鉢山ク

栃木

◇第9回関東高校県予選（5月11〜12日、栃木女）

▽男子予選リーグ

烏山 13－6 宇都宮工
国学院 7－6 足利高
足利工 29－5 宇都宮工
国学院 19－4 石商
足利高 12－6 石商
足利工 26－4 烏山

▽男子決勝

足利工 7（2－3、5－1）4 国学院

▽女子リーグ

栃木女 12－4 足利女
足利女 8－6 国学院
栃木女 20－1 国学院

茨城

◇第1回県実業団選手権（5月19日、日本原子力研究所）

原研 11－7 日立製作
原研 8－7 自衛隊勝田
日立製作 14－12 自衛隊勝田

神奈川

◇県高校春季リーグ戦 4月27日から5月26日まで県下六カ所で行なわれた。男子はことしから地区別に三ブロックに分けて行なった。

▽男子順位 ①翠嵐 ②慶応 ③横浜商工 ④関東学院 ⑤法政二 ⑥鎌倉学園 ⑦横浜市立南 ⑧市立川崎 ⑨少年自衛隊 ⑩横須賀工 ⑪三浦 ⑫法政二工 ⑬平沼

▽女子順位 ①市立川崎 ②平塚江南 ③横須賀大津 ④平沼 ⑤横浜市立南

◇県一般選手権（5月26日、横浜蒔田中、関東学院）

▽男子決勝

日本鋼管クラブ 22（10—8、12—12）20 三春台クラブ

▽女子決勝（オープン）

ジューキミシン 20（10—0、10—2）2 蒔田クラブ

大阪

◇第17回府民体育祭（5月3日～5日、桃山学院大、豊中五中、大谷高）

▽一般男子決勝

関大 25（14—13、11—8）21 佐野工高クラブ

▽一般女子決勝

レナウン大阪 7（4—3、3—2）5 寝屋川クラブ

▽高校男子

寝屋川 31（17—6、14—4）10 桜塚

▽高校女子

豊中 7（4—2、3—4）6 大谷

▽中学男子（22チーム）

豊中二中 12（5—3、7—7）10 大淀中

▽中学女子（8チーム）

豊中三中 13（5—4、8—4）8 大谷中

◇第6回近畿高校選手権（5月11日～13日、明石高、県立尼崎高、県立兵庫工高）

（男子）

▽一回戦

寝屋川 20—6 添上
兵庫工 17—2 育英
明石 16—4 新宮
東住吉 5—4 彦根工
岸和田 9—3 八幡工
洛東 10—5 和歌山商
伏見工 18—7 三田
桜塚 7—4 尼崎工

▽準々決勝

寝屋川 15—0 明石
伏見工 14—4 岸和田
兵庫工 9—7 東住吉
洛東 12—8 桜塚

▽準決勝

寝屋川 11（5—4、2—3、2—0、2—1）8 伏見工
兵庫工 12（5—5、7—5）10 洛東

▽決勝

寝屋川 19（7—5、12—3）8 兵庫工

（女子）

▽一回戦

寝屋川 8—1 那賀
添上 2—1 佐用
明徳商 6—2 甲子園
三国丘 5—3 京都女
八幡商 4—3 郡山
大谷女 7—3 彦根西
豊中 7—5 尼崎
兵庫工 8—1 和歌山商

▽準々決勝

寝屋川 7—6 明徳商
豊中 8—6 八幡商
三国丘 9—2 添上
大谷 14—5 兵庫工

▽準決勝

豊中 9（6—1、3—3）4 寝屋川
大谷 7（3—4、4—2）6 三国丘

▽決勝

豊中 6（3—4、3—0）4 大谷

和歌山

◇第1回県春季選手権（4月28、29日、和歌山商）

▽男子準々決勝

新宮高 9—7 和歌山工高
和商ク 13—6 岡畑ク
那賀ク 13—12 東西燃料
貴志川ク 13—11 和歌山商

▽男子準決勝

和商ク 20（11—5、9—6）11 新宮高
那賀ク 9（5—2、4—6）8 貴志川ク

▽男子決勝

和商ク 10（5—4、5—4）8 那賀ク

▽女子リーグ

那賀高 4—2 和商高
那賀ク 13—3 那賀高
那賀ク 12—1 和商高

京都

◇第17回京阪神三都市教職員体育大会（6月2日、京都洛南中）

神戸 6—6 京都（引き分け）
大阪 9—5 京都
神戸 9—6 大阪

岡山

◇第1回県高校優勝大会兼第18回県高校体育大会（5月25日～26日、岡山総合グラウンド）

（男子Aブロック）

▽一回戦

勝間田農 15—10 玉野
津山 7—5 倉敷商
青陵 15—8 岡山工

▽二回戦

天城 37—4 勝間田農
青陵 34—4 津山

▽決勝

青陵 10—8 天城

（男子Bブロック）

▽一回戦

矢掛 10—8 関西
津山工 19—9 瀬戸農
倉敷工 16—12 津山商

▽二回戦

津山工 12—10 矢掛
倉敷工 17—15 操山

▽決勝

倉敷工 18—16 津山工

▽優勝決定戦

倉敷工（抽選勝ち） 21（9—10、7—6、1—1、1—1、2—1、1—2）21 青陵

（女子）

▽準決勝

井原 32（14—0、18—0）0 津山商
青陵 21（9—0、12—1）1 津山

▽決勝

井原 16（10—2、6—3）5 青陵

◇第14回全国高校県予選（6月8、9日、岡山大）

▽「男子」一回戦

岡山工 24—7 玉野
関西 16—15 勝間田農
操山 11—8 津山工
矢掛 9—7 瀬戸農
津山商 16—6 倉敷商

▽準々決勝

倉敷工 14—12 岡山工
天城 50—2 関西
矢掛 14—7 操山
青陵 24—10 津山商

▽準決勝
天　城 18－14 倉敷工
青　陵 17－9 矢　掛
▽決勝
天　城 20（12－6、8－7）13 青　陵

「女子」
▽一回戦
青　陵 20－3 津山商
井　原 14－2 落　合
▽決勝
井　原 21（11－2、10－2）4 青　陵

山口

◇山口県体育祭（5月19日、下松工高）

（男子）
▽一回戦
岩国ク 25－6 防府ク
▽二回戦
徳山ク 23－8 岩国ク
東洋鋼 21－15 山口高
出光興産 9－7 三井石油
下関ク 18－8 日　立
▽準決勝
徳山ク 33（12－4、21－6）10 東洋鋼
下関ク 14（9－6、5－6）12 出光興産
▽決勝
下関ク 9（5－4、4－4）8 徳山ク

話題のチーム⑯
ジューキ・ミシン（女子）の巻

〃生みの親〃は、なんと大崎電気社長の渡辺和美氏である。ジューキ・ミシンの山岡社長とはゴルフ友だちの間柄。渡辺社長が山岡社長に「ハンドボールチームをつくれ」とことばをかけたのが、そもそものきっかけ。それで山岡社長が〃育ての親〃となったもの。渡辺社長のねらいは、「将来関東女子実業団リーグをやるために、山岡さんにご協力していただいたのです」。これはほんとうのこと。したがって選手集めも、渡辺さんが時間と暇にあかせて地方を走り回って、優秀な選手をジューキ・ミシンに提供したもの。

▽…それはさておき、このチームはことしの4月に生まれたばかりの〃ゼロ歳〃のチーム。公式戦に出たのは5月の東京都民大会が初めて。お姉さんチームの大崎電気、レナウン工業に敗れたが、大いに好感の持てるチーム。監督の近藤金博君（芝浦工大）は「なにしろ生れたばかりで、西も東もわからないことばかりです。走力がないので、これからはスピードをつけることに重点を置きます。ことしから来年にかけての目標は、第一にレナウン工業を倒すこと。第二は大崎電気よりも強くなることです。大崎電気より強くなれば、渡辺社長にたいして恩返しができるからです」と抱負はきわめて大きい。練習は夕方から日没まで休みなしという。渡辺社長はジューキ・ミシンチームを見て「強くなるチームです。ゆだんできない」とほめていた。

九州

◇第6回近県総合選手権（3月23日～24日、久留米市石橋文化センター、明善高）

（男子）
▽一回戦
熊本市商 19－9 第4特科連隊（福岡）
▽二回戦
桃山大（大阪） 14－13 下松工高（山口）
山口大 12－8 西南大
小倉工OB（福岡） 13－12 熊本ク
熊本教員団 25－13 熊本市商
山口教員団 25－7 長崎大
久留米幹候校 28－9 鶴崎工クラブ（大分）
福岡教員団 11－7 下関ク
岡野パルプ（福岡） 16－14 済々黌高（熊本）
▽準々決勝
桃山大 16－14 熊本教員団
小倉工OB 23－15 山口大
山口教員団 22－17 岡野パルプ
福岡教員団 25－10 久留米幹候校
▽準決勝
桃山大 19（9－8、10－7）15 小倉工OB
福岡教員団 19（9－8、10－7）15 山口教員団
▽決勝
福岡教員団 23（13－10、10－6）16 桃山大

（女子）
▽一回戦
竜胆ク（福岡） 20－0 西南女学院高（福岡）
▽準々決勝
大洋デパート 20－1 明善ク（福岡）
明善高ク 10－7 熊本商大ク
大崎電気（東京） 15－5 熊本市高ク
菊池農蚕高ク 15－9 竜胆ク
▽準決勝
大洋デパート 27（14－3、13－2）5 菊池農蚕高ク
大崎電気 20（6－4、14－1）5 明善高ク
▽決勝
大崎電気 13（6－1、7－6）7 大洋デパート

福井

第10回北陸三県総合体育大会

ハンドボール競技（高校男女）は6月16日、福井市で行われ、男女とも富山勢が勝った。

女子で新進福井商が気力のある攻守を示し、名門羽咋高（石川）を破って二位となり注目された。

▽高校男子
氷見高（富山） 21（7－2、14－6）8 高志高（福井）
氷見高 24（11－9、13－8）17 金沢商（石川）
金沢商 25（15－5、10－12）17 高志高
（順位）①氷見高 ②金沢高 ③高志高
▽高校女子
富山女商（富山） 14（7－0、7－11）11 福井商（福井）
富山女商 16（5－4、11－1）5 羽咋高（石川）
福井商 14（4－5、10－2）7 羽咋高
（順位）①富山女商 ②福井商 ③羽咋高

投書欄

疑問ある韓国・桃山戦

関西学連から除名された桃山学院大が、六月の対韓国学生選抜チームとの国際ゲームに出場した。これは全くフに落ちない。

関西学連を除名されたことは、日本協会の機構から自動的に除籍されたものである。日本協会、全日本学連の主催する大会に参加する資格はないはずである。

まして、国際親善試合に日本側チームとして堂々と対戦を許可したのは、日本協会当事者が、いかなる考えを持ってのことであるか。（愛知・床竹勇・会社員）

「回答」関西学連のトラブルで桃山大が除名されたのは、ちょうど「コップの中の嵐」のようなものです。このささいなことだけで、国際信義を踏みはずすようなこと、つまり桃山大—韓国学生の国際ゲームを中止することは許されません。日本協会と韓国協会との間に正式な契約書を取りかわしているので、国内のトラブルよりも国際試合が優先されるのは国際常識です。それで桃山大が堂々と国際試合をやったのです。少しもおかしいことはありません。

（日本協会理事長　高嶋冽）

年鑑発行の計画を

本誌に掲載されている「記録史」は大変興味深い。記録保存の意味から毎年「ハンドボール年鑑」を発刊してほしいと思う。二年分まとめてもよい。

（広島・水谷陽一）

永久的な財源を

日本のハンドボールも国際舞台進出が目だって多くなったようだ。しかし遠征のたびに、その派遣費が問題になっているようだ。ハンドボールに限らず、海外遠征の国庫補助はきわめて少ない。

自費で海外遠征に行ける環境にある人は少ない。といって海外球界との交際を断つのは日本球界にとってマイナスである。

まことに頭の痛い問題だ。協会は、海外遠征費に限らず、協会財産の確保に真剣に取り組む時機がきていると思う。遠征の前になって急にお金を苦心して集めるのではなく、平生機会をみて基金を積みたてておいたらどうだろう。参加（登録）チームからわずかでもお金を集めるのも一策。大会ごとに参加選手一人について、50円づつ集めてもいいだろう。スタンドつきのホームコートをつくって、有料試合を行なうの手もある。永久的な財源の確保について、協会当局の積極的な活動を切望したい。

（東京・三村雄二・学生）

「回答」ご意見はもっともです。だが外国チームを招待するには約一千万円。海外遠征には一千三百万円もかかります。協会は協会なりに金策に走ってやってきたのです。今後も勿論労は惜しみませんが、名案がありましたら、どしどしお知らせ下さい。（協会財務部長　山岡二郎）

質問欄

問　東海学生リーグと愛知学生リーグは別の団体ですか。
また西日本学連、中四国学生リーグはどうですか。
（岩手・白木生）

答　愛知学生リーグは東海学連加盟校のうち、愛知県内に所在している六校で組織しているものです。参加校は中京大、名大、名工大、愛知学芸大、南山大、名市大（現在休部中）です。

中、四国学連はこれまでの中四国・九州地方の大学で組織して西日本学連のうち、中四国に所在する大学で結成されており、昨秋第一回リーグ戦を開きました。

問　東西の学生リーグで活躍し、一月の全日本実業団に出場した主な選手をお知らせ下さい。
（東京・玉田弘）

答　全選手の経歴はわかっていませんので落記があることを初めにお断わりしておきます。

【芝浦工大】今野、宮原藤、田口、福本、村上（以上大崎電気）
【立大】伊藤、横井（以上豊橋建設）、天野、一柳（以上静岡日野自動車）
【慶大】岡田一（新三菱）、岡田雅、松本、牧村（以上丸紅飯田）
【明大】斎藤（盛岡市役所）、高田（静岡日野自動車）
【日体大】高橋、竹野（以上大崎電気）、西山（朝霞自衛隊）
【立命館大】吉田、林（以上京都市役所）
【早大】久保（安田生命）、河内（新三菱重工）
【神大】土居、加藤、横田（以上丸紅飯田）
【その他】宮下（関大—自衛隊朝霞）、長谷川（阪大—新三菱重工）、林（同大—安田生命）、山磨（関学—安田生命）、飯沼（中大—静岡日野自動車）、山田（日体大女子レナウン）

問　日本で最初の実業団同士の試合についてお知らせください。
（東京・T・K）

答　編集部の知る限りでは昭和35年2月7日、名古屋の金山体育館で開かれた愛知県室内選手権大会女子の愛知紡28—0東洋レーヨンの試合だと思います。

問　全日本実業団ハンドボール連盟という組織がありますか。
（大阪・J子）

答　ありません。しかし実業団チームがますます増加の傾向にあり、大崎電気の渡辺社長や本部協会でも考えています。早ければ年内に発足しそうです。

質問歓迎。用紙はハガキ。記録、審判技術、ルールなどの質疑にお答えします。紙上匿名は自由ですが、住所、年令は明記してください。

◇ 都道府県協会所在地一覧表 ◇

昭和38年7月1日現在

県名	各県協会住所	会長名
北海道	函館市東雲町9　市教育委員会内　TEL（3）0864	小坂幸一
青森	青森市大字造道字浪打100　県立青森商業高校内　TEL（2）2625，7509	鹿内一胤
秋田	秋田市手形中野台1　県立秋田高校内　TEL 秋田 2—2969，3—0231	武田兼治
岩手	盛岡市三ッ割田畑66　市立下小路中学校内　TEL（2）8865，4653	菊池慶一郎
宮城	仙台市川内　東北大学川内分校体育研究室内　TEL（23）1181	松川金七
山形	寒河江市六供町　県立寒河江高校内　TEL 寒河江 2195，2196	市村利兵衛
福島	郡山市方八丁32　熊田栄一気付　TEL 郡山(呼) 2056	丹治盛重
群馬	富岡市七日市1500　県立富岡高校内　TEL 富岡 53	岸篤三
栃木	足利市本城1の1629　県立足利高校内　TEL 足利 4573	長竹寅治
茨城	水戸市渡里町　茨城大学体育研究室内　TEL 水戸（2）4171	染谷秋之助
埼玉	浦和市元町1の255　浦和市立高校内　TEL 浦和（2）3567，2395	藤間英一
千葉	千葉市小仲台町824　千葉大学文理学部内　TEL（3）9101．9105	泰道三八
東京	杉並区荻窪2の100　山岡二郎気付	渡辺和美
神奈川	横浜市南区三春台4　関東学院内　（3）0234，（3）0305	保坂周助
長野	上田市新参町　市教育委員会内　TEL 上田 1200	鈴木俊
新潟	柏崎市本町5　佐渡五旅館内　TEL 柏崎 2325	近藤祿郎
山梨	東八代郡石和町中川　県立山梨園芸高校内　TEL 石和 130	米山泉
静岡	清水市入江岡975　清水市立商業高校内　TEL 清水（2）7330，7331	斎藤敏之
岐阜	岐阜市加納南陽町3　加納高校内　TEL（2）4418，（3）0431	山内清次
愛知	名古屋市中村区鳥森　松蔭高校内　TEL 名古屋（48）3226	小杉仁造
福井	福井市御幸町2の1　県立高志高校内　TEL（2）1222，1282	伊藤仁和
石川	金沢市宮守堀通り　石川県スポーツ会館内　TEL（3）2579	油谷外郷
富山	小矢部市新西　富山県販購連養鶏センター角勉気付　TEL 津沢 1000	高田義一
大阪	大阪市阿倍野区昭和町　桃山学院大学林宏宰気付　TEL（621）1181	馬場太郎
三重	鈴鹿市白子町　鈴鹿電気通信学園内　TEL 四日市（2）9212，白子 260～4	服部阿津二
滋賀	近江八幡市西庄町　県立八幡工業高校内　TEL 近江八幡 7227	嶋田栄一
京都	京都市北区小松原南町10　県立洛星高校内　TEL（44）2334	木下弥三郎
奈良	奈良市高樋町498　森田正英気付	村井繁昌
和歌山	和歌山市湊　県立和歌山商業高校内　TEL（2）2991，7742	中村常夫
兵庫	神戸市兵庫区川中町43　県立兵庫工業高校内　TEL 神戸（67）1431～5	山本義政
岡山	岡山市上伊福946　県立岡山工業高校内　TEL（3）7216	村山寛
広島	広島市尾長町三本松　川上病院内　TEL（6）3782	川上正幸
山口	下松市　市教育委員会内　TEL 下松 783	近間忠一
香川	高松市桜町　県立高松第一高校内　TEL 高松（3）3853，6627	山西寛
愛媛	松山市西立花町南340　越智武気付　TEL（呼）（3）1307	梶浦暲一
高知	高知市鴨部668　県立高知西高校内　TEL（2）3249，5721	山下市平
福岡	福岡市香椎町　県立香椎高校内　TEL 香椎 9	岡野正実
大分	臼杵市海添　県立臼杵高校内　TEL 臼杵 3005	松井慶事
熊本	熊本市黒髪町坪井　県立済々黌高校内　TEL（4）1773，6301	佐々木克己
長崎	佐世保市高砂町48　市教育委員会保健体育課	田中丸善一郎
鹿児島	鹿児島市草牟田町3918　県立鹿児島工業高校内　TEL（2）9205	増田静

編集後記

▽…7人制をアンケートの回答用紙を整理したら、高校チームが多く大学チームは思っていたより少なかった。関東学連10、関西学連8のうち、回答のあったのは芝浦工大、日体大だけ。地方は東北学院、中京大、広島商大だけ。日本のトップレベルにある学生界からの回答が少ないのには、いささかがっかりした。全国のハンドボール愛好者のために、もっとほしかった。この次からはよろしく願います。

▽…韓国から学生チームがやってきた。戦前の顔なじみがいるので、すべての点でうまくいったとか。アジアには日本、韓国、イスラエルがハンドボールをやっており、この3チームの存在は貴重である。韓国との試合に観客が少なかったが、PRがたりなかったのではないか。関係者の奮闘を期待します。

▽…関西学連のトラブルは、もっと大きく扱った方がいいというご意見もありましたが、機関誌の目的からいってのぞましくないので小さく扱いました。7人制に切り替わったばかりで、大なり小なりこのくらいのトラブルはあるかもしれません。みんなでハンドボールを育てていきましょう。

▽…東京都協会長に大崎電気の渡辺社長、愛知県協会長に愛知紡績の小杉社長、福岡県も岡野バルブの岡野専務が就任しました。実業団チームを持つ社長さん方の出馬はうれしいことです。

▽…ハンドボールの歩み、各県の大会記録をさっそく送っていただいた関係者に厚くお礼申しあげます。（ふぐ）